駿河神原城

北

善眼寺村

水手曲

本丸

二丸

三丸

引橋

角櫓

角櫓

馬場

御茶屋

山居沢

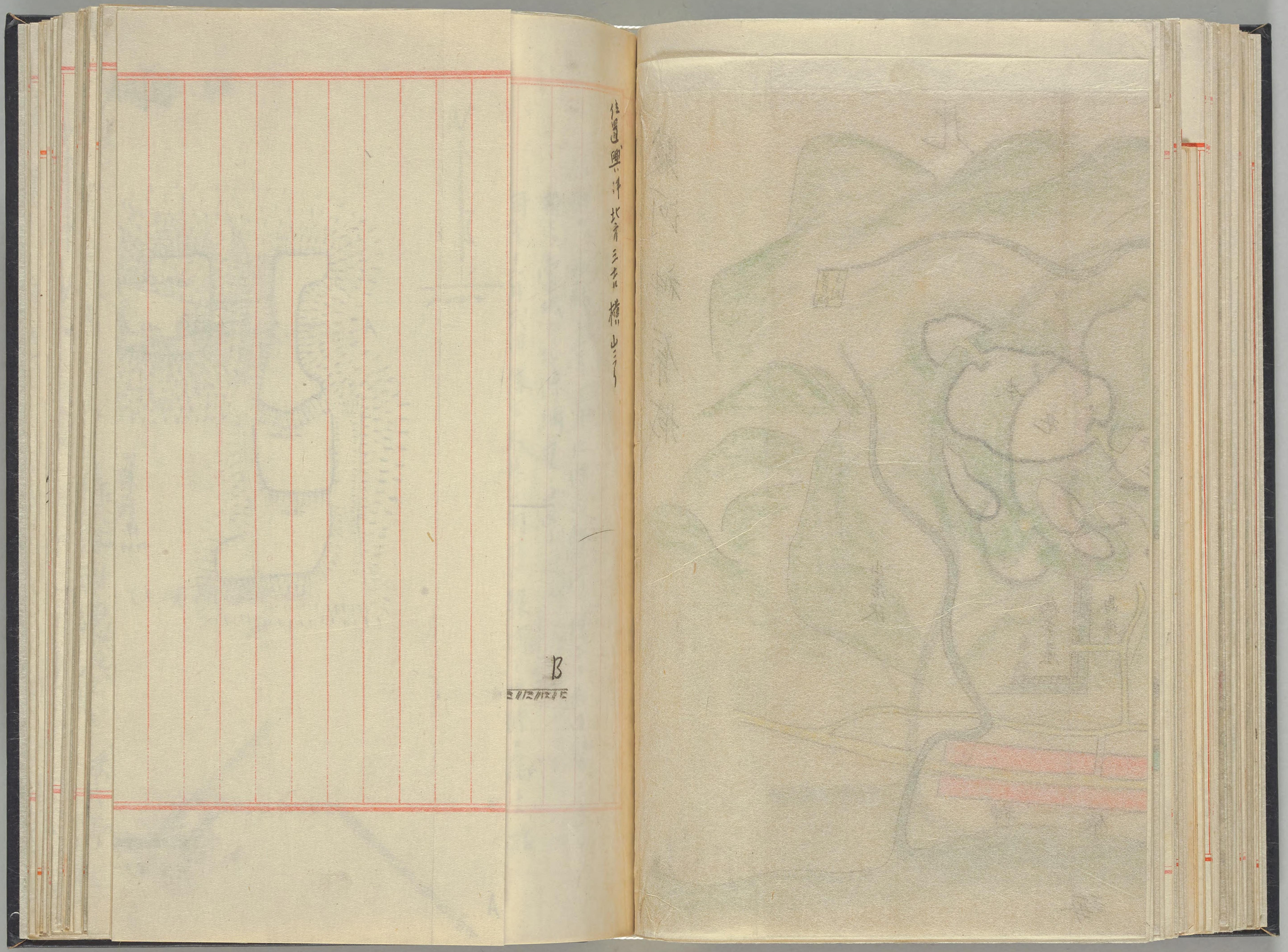
町

原

神

海

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

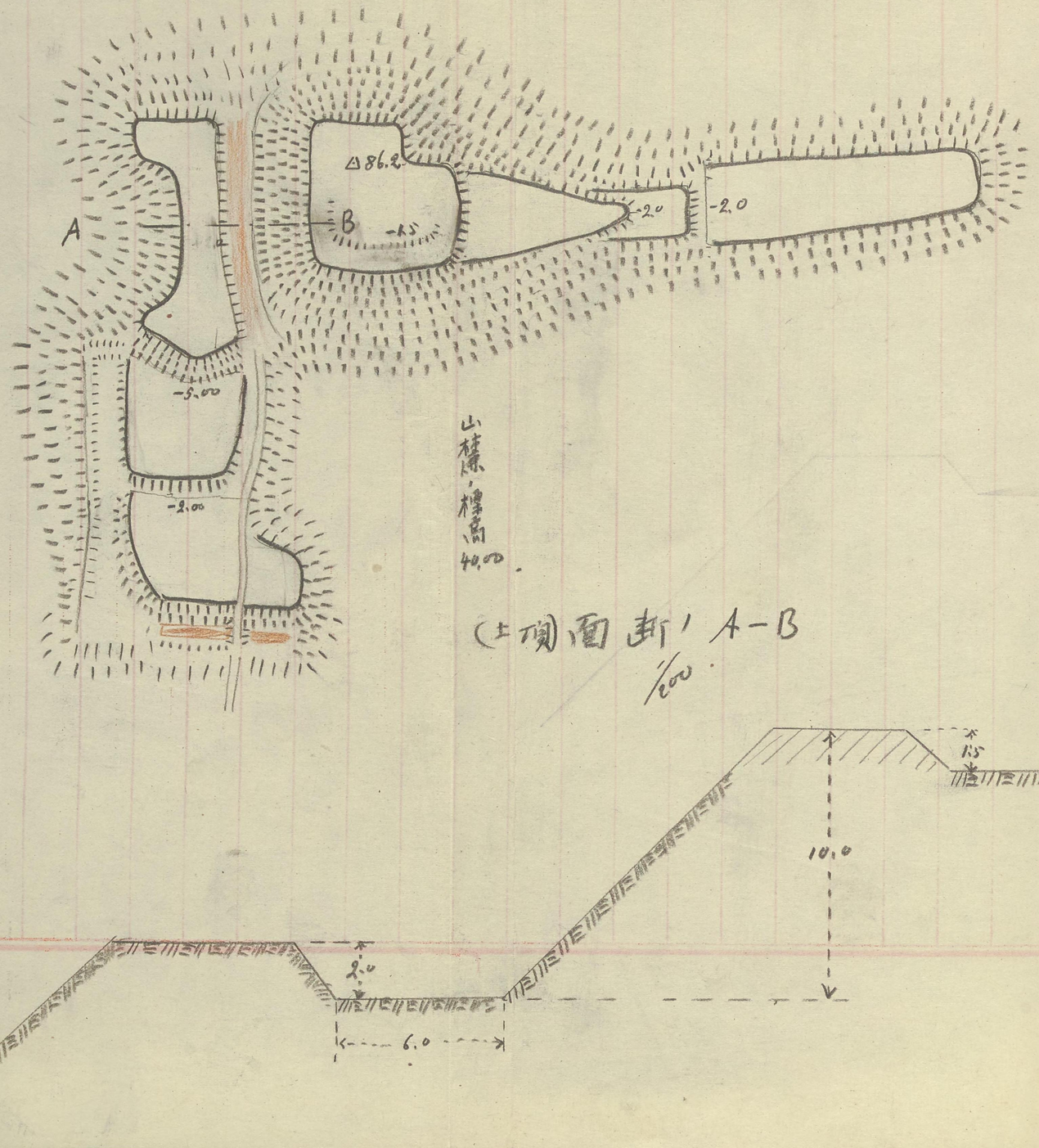


国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

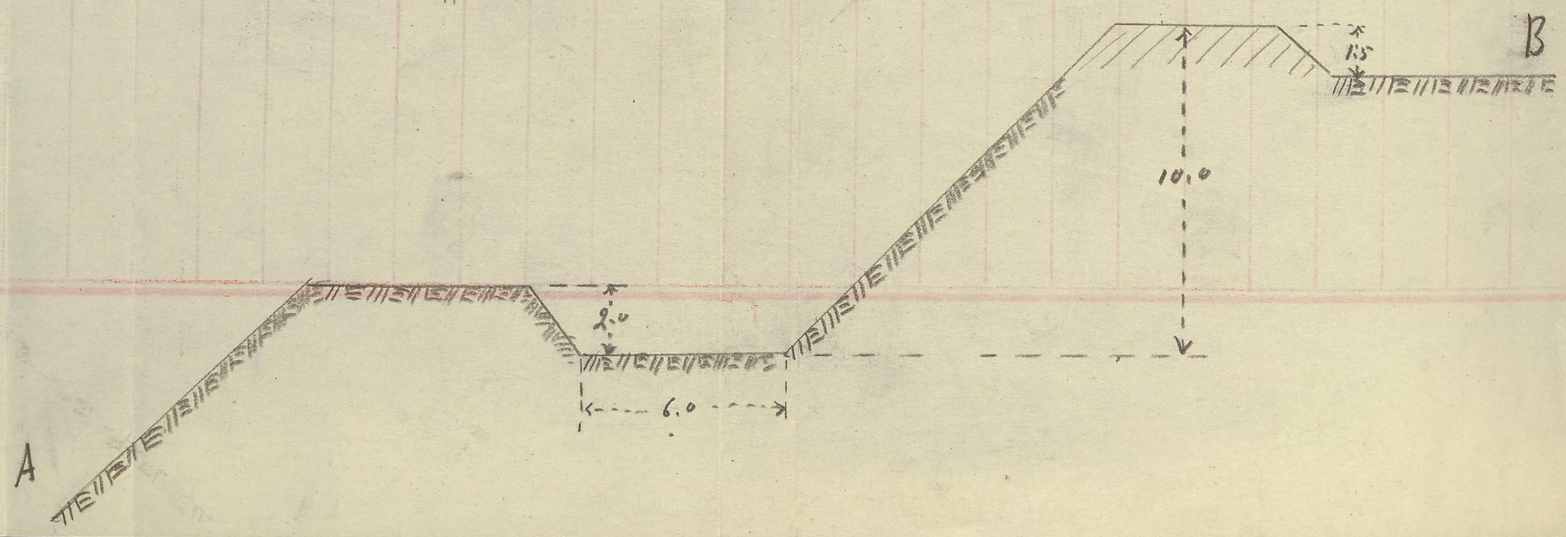
回城津興

N

1/1000



(土塁断面 A-B
1/200



位置興津北方三吉 標山ニテ

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

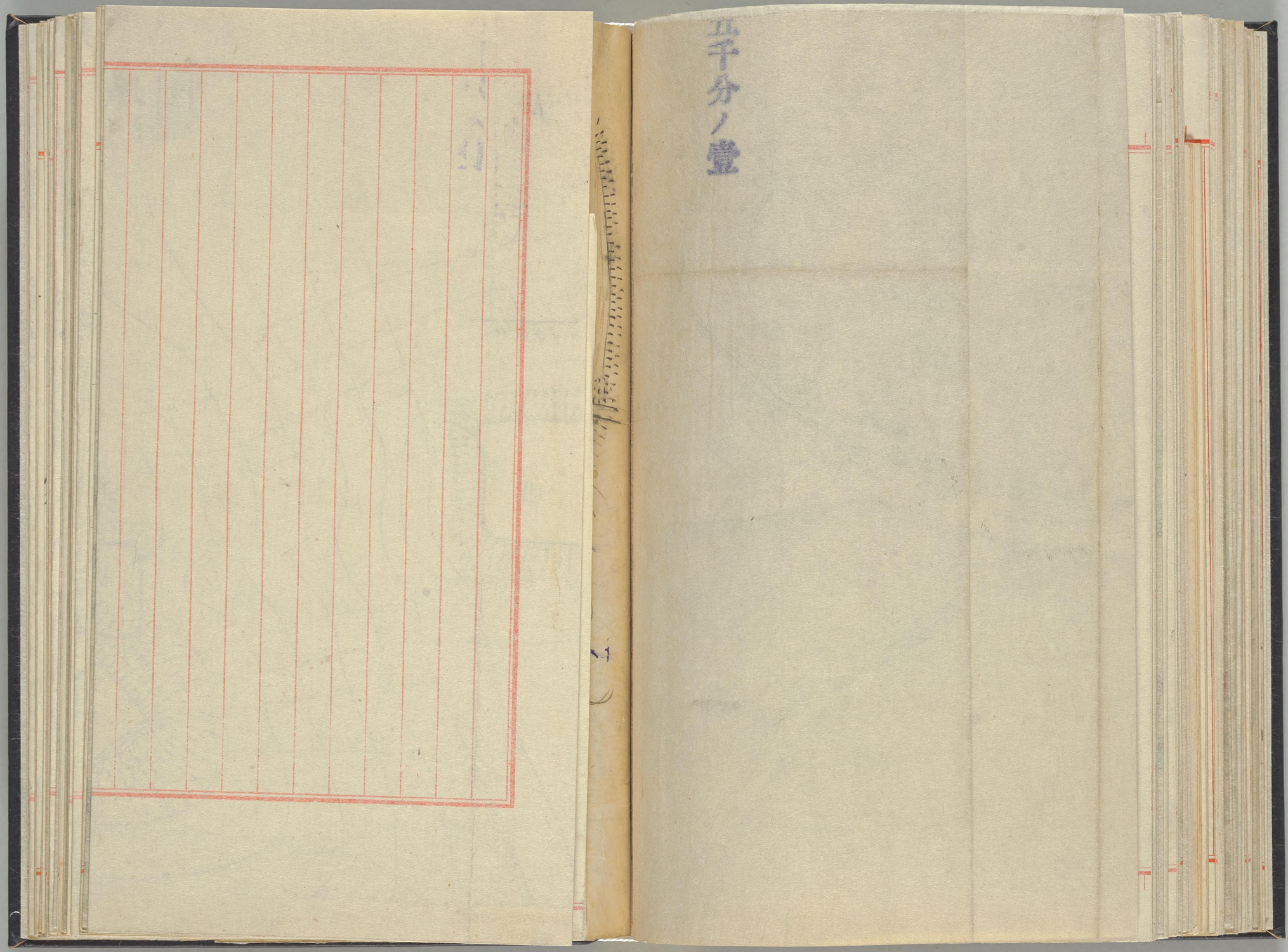
神奈城

経歴。永禄十一年正月北條氏駿河ヲ押入リ武田勢ヲ追ヒ
拂ヒテ當城ヲ北條綱重ヲ置ク
同年十二月武田信玄大擧南下シ駿河ヲ北條ニ屬スル詔
城皆解走ス綱重獨リ神奈城ニ堅守シテ動カス然
レドモ同ジク城陽リ斃ス（十月六日）

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

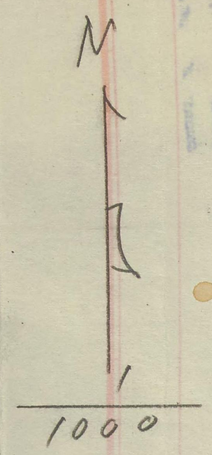
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

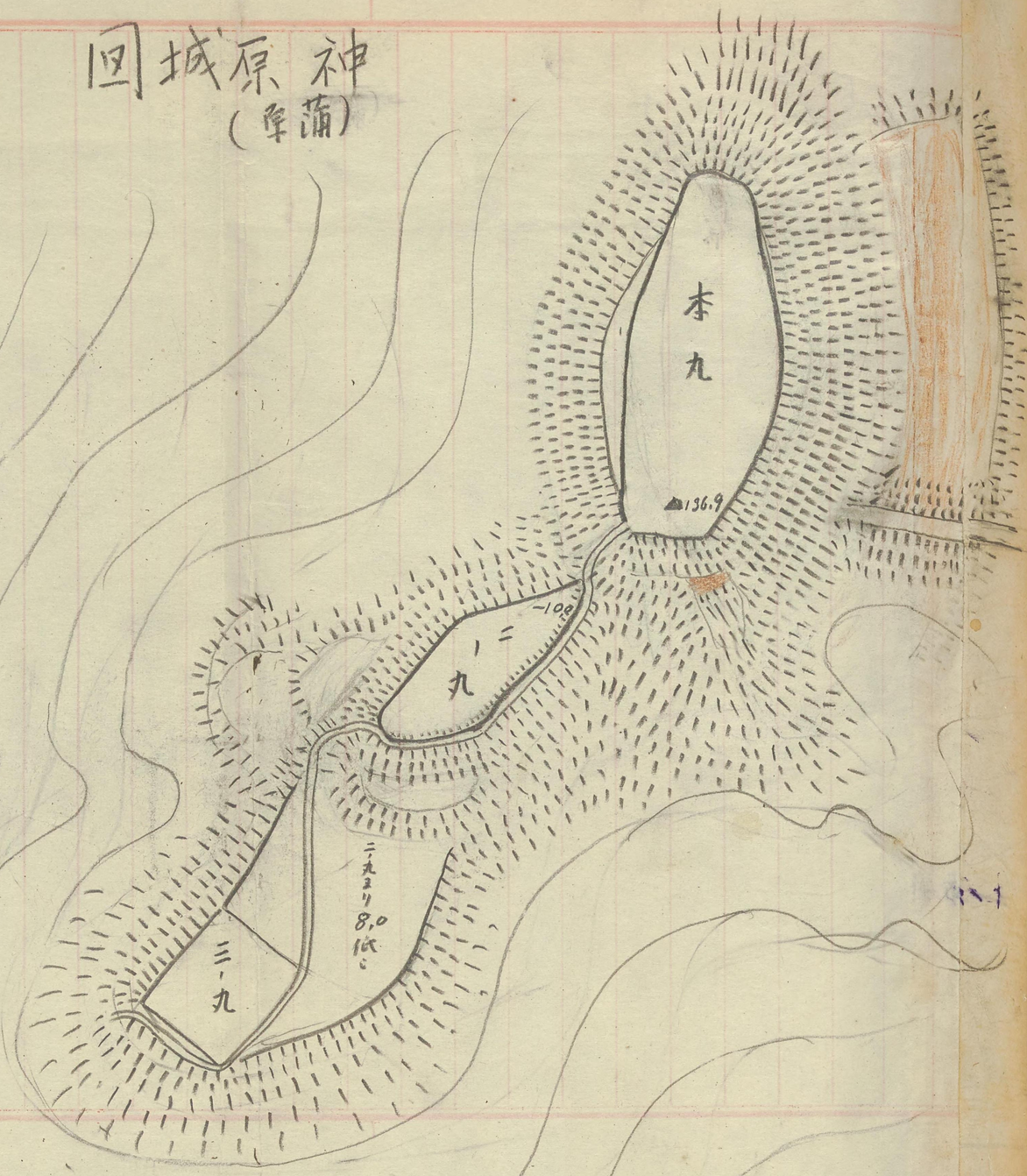
国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

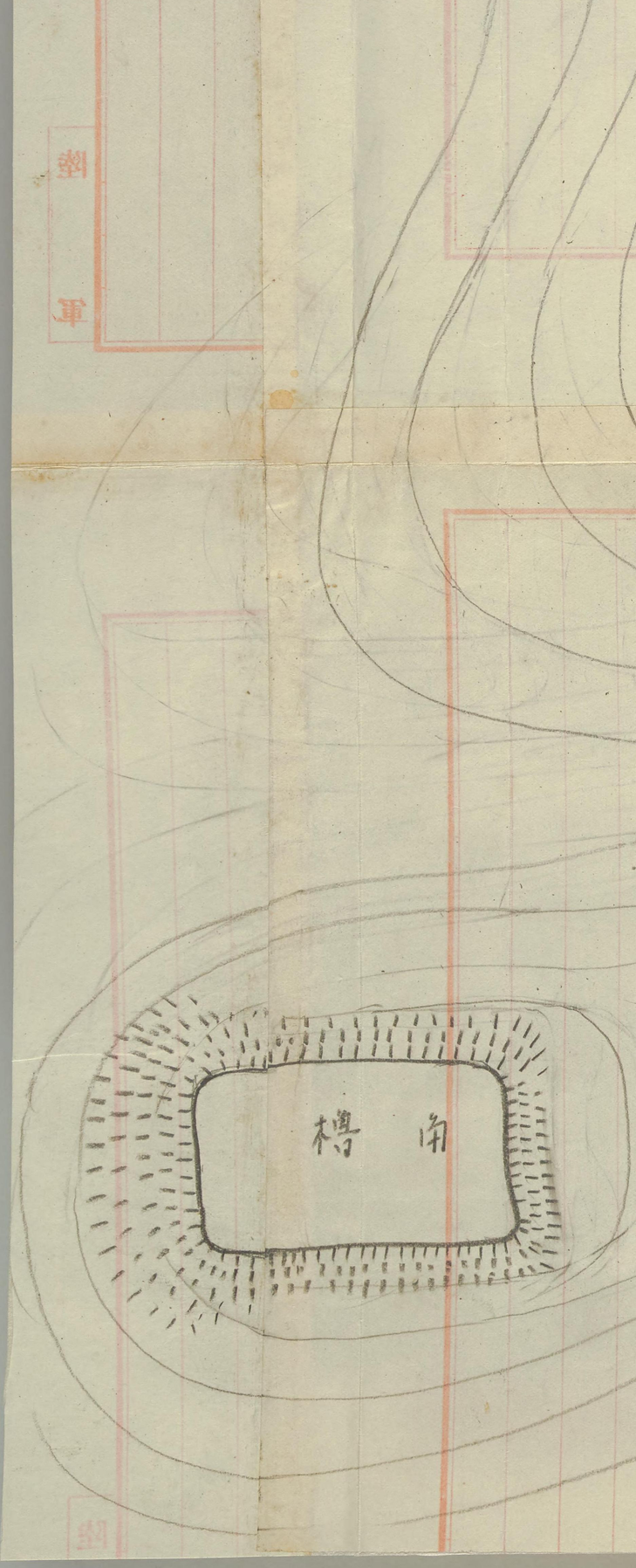


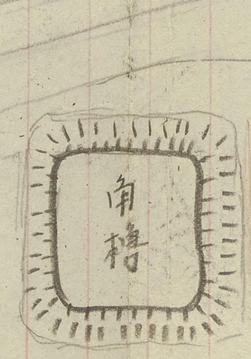
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

回城原神（単蒲）

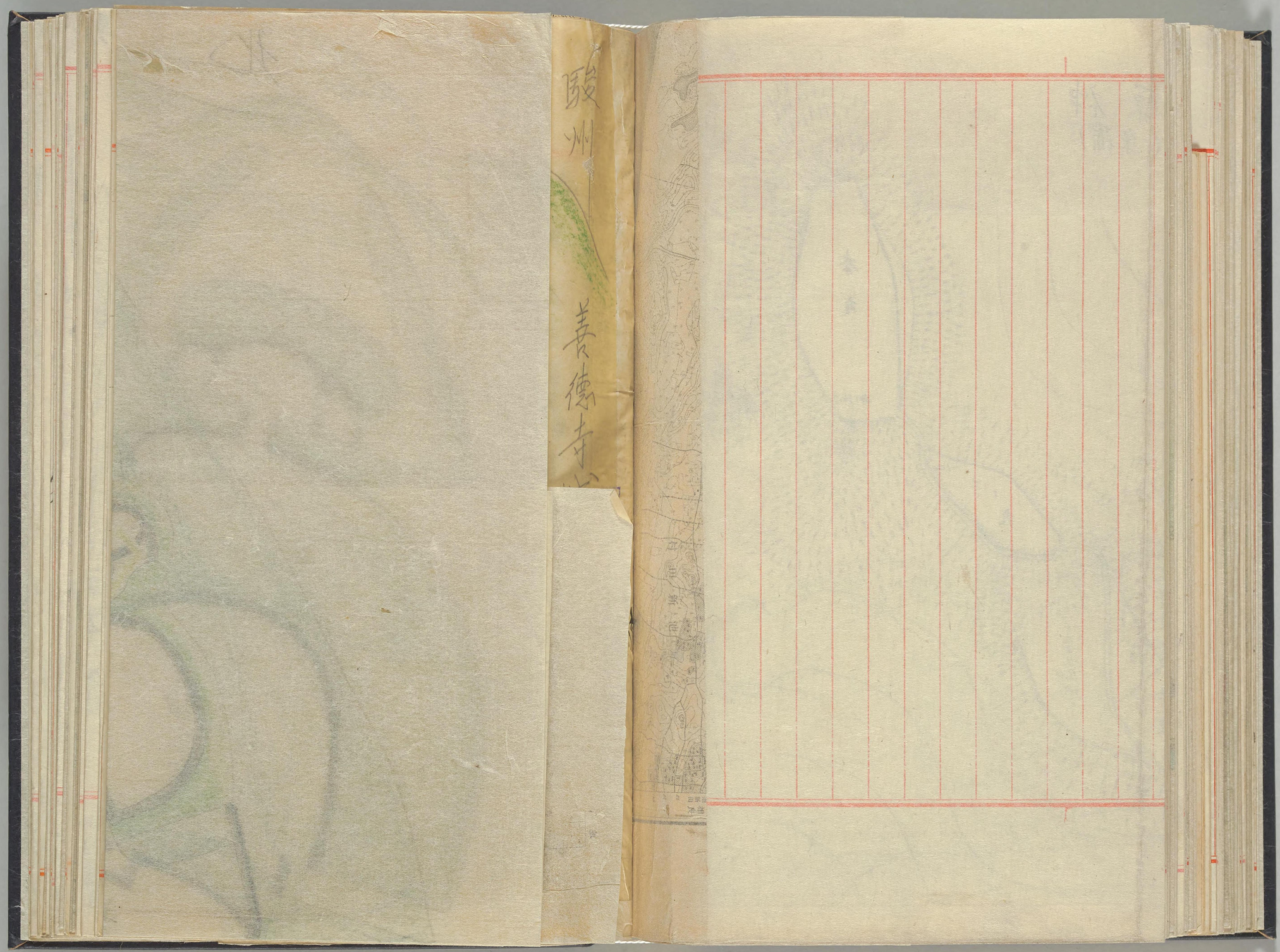








国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

興國寺城主變遷表

陸軍

藩主	城主	石高	期間	年限	摘要
今川氏	伊勢長氏		永正十年		創業ノ主ト明ニ伊勢長氏（早雲）今川氏親ニ仕ヘテ當城ヲ賜リ並ニ城ニ移リ居ル（但シ二年ヲ明確ニ決シ難シ我ニ永正十七年トモ云フ）（静岡縣郷土研究ニ）
〃	信濃守永政家		〃		
〃氏	佐竹（城代）高貞		永禄中		政変ノ後、今川氏ノ重臣、佐竹左馬之助當城ヲ守ル氏（年月不明）
北條氏康	（城代）		永禄十二年十月		
武田晴信	（城代）		〃	14年	武田晴信駿河ヲ略シ北條氏ト講和ノ後當城ヲ悉ク毀チ頓ニ穴山信君ヲシテ屋形掃部頭ヲシテ之ヲ守ラシム
徳川	牧野康成（城代）		天正十年		家康駿河平定後牧野康成ヲシテ守ラシム（康成今年十月ヨリ長窪城ニ移リシカラシテ一年ニ滿タズ）
川氏	松平清宗（城代）		〃		牧野氏ノ後、北條氏ノ押ヘトシテ松平清宗ヲシテ守ラシム
氏	牧野康成（城代）		天正十二年		水牧戰ヒテ北條氏ト和シ清宗ノ後、當城ノ修理ヲ牧野氏ニ命ジ家康ハ小牧ノ後、牧野康成ヲシテ守ラシム（静岡縣史ニ）（康成ハ後ニ上野大胡城ヘ）
中村氏	河毛（城代）勘左衛門		〃	11年	中村氏駿河ヨリ轉ジテ當城ヲ守ル（同後慶長五年ニ廢城ト云フ）
天野氏	天野康景	一〇、〇〇〇	〃	7年	武州内ヨリ轉ジテ當城ヲ守ル慶長十二年三月ニ没收（同後廢城ト云フ）

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

駿州興國寺城

侍屋敷

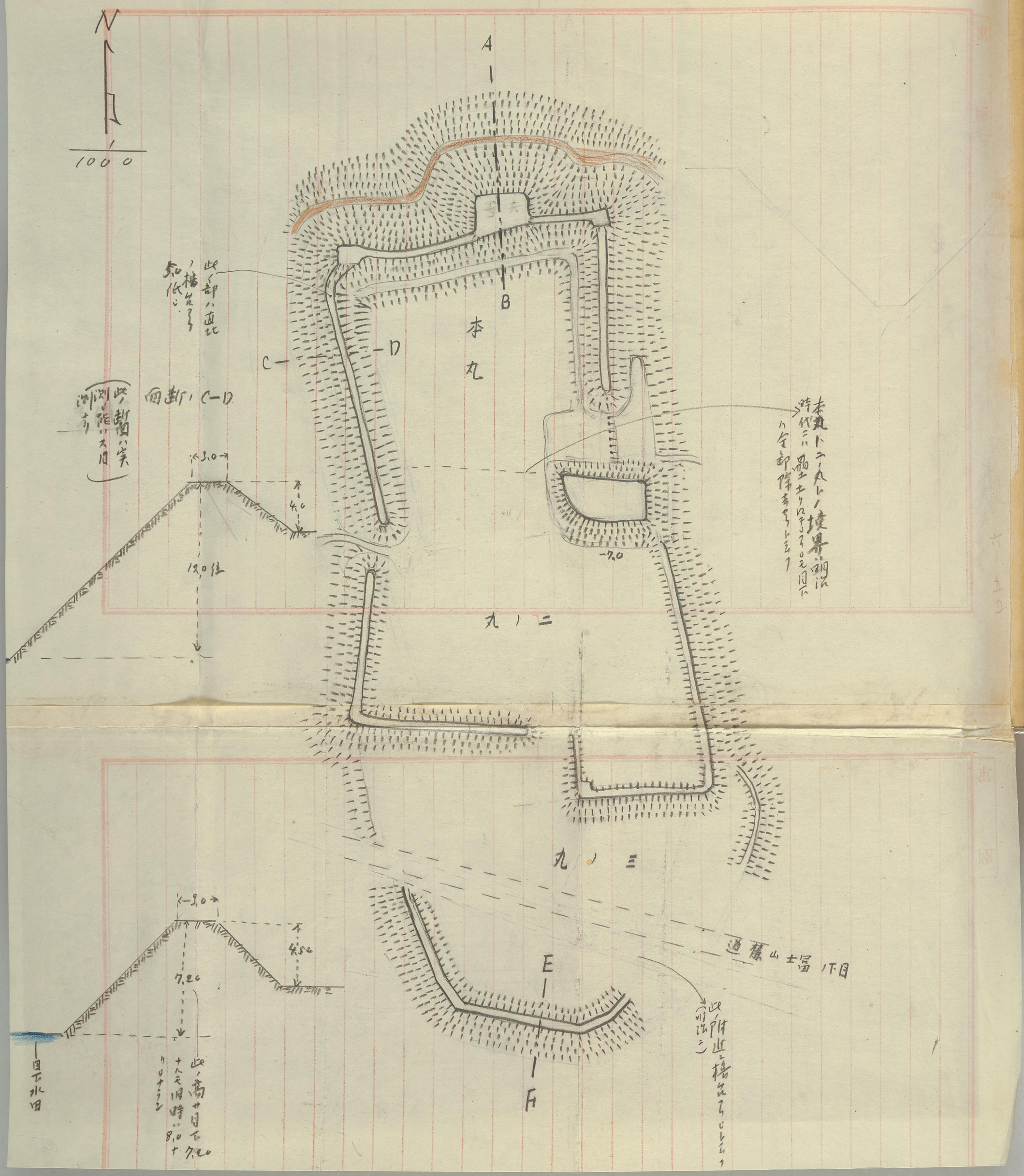
三万五千分之一

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

興國寺城



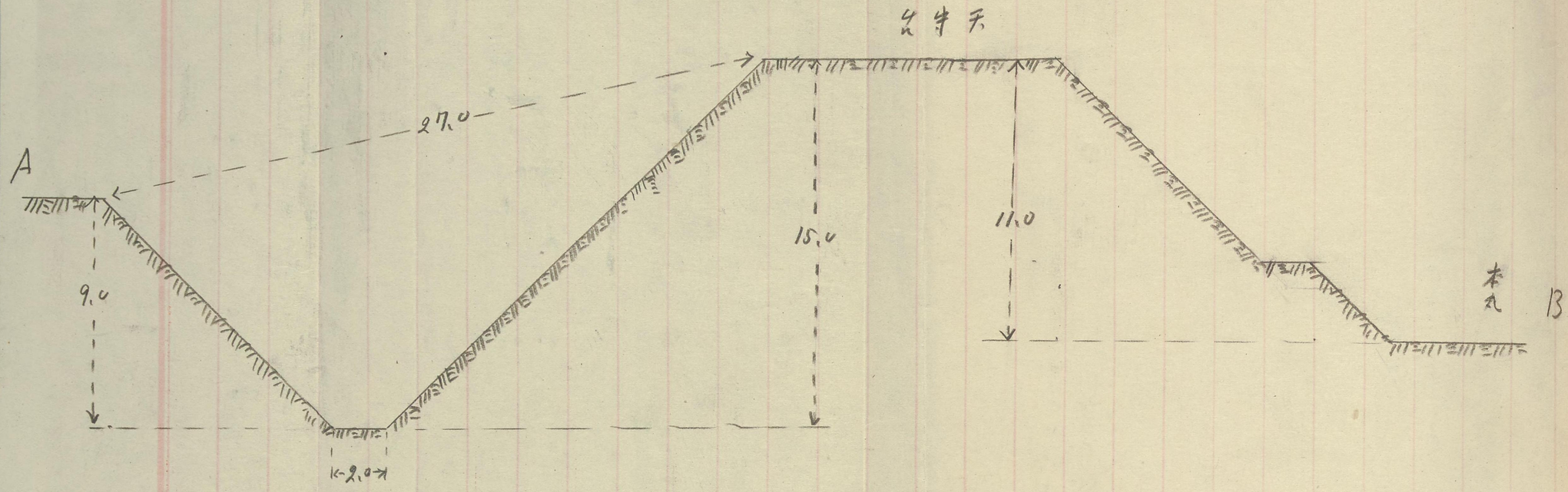
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

本丸 13

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

断面図 A-B

1/200



別紙甲第六号証の一

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

興國寺城ノ特長

一、伊勢長氏當城ニ入リシハ文明中ニシテ廢城トナリシハ慶長十二年ナルヲ以テ約百三十年間ニ亘リ使用セシガ長氏以後有力ナル城主ヲ戴キシ城ハ結構ノ概要ハ長氏當時ノ大差ナキモノト見做シ此ノ城ノ割合ヲ以テ他ノ保持セラルル城郭ノ一例トシテ資料トシテ以下ノ如シ

カ

二、本城ハ慶應山ヨリ流ルル一條ノ谷ヲ以テ東西ニ截チシテニノ郭トシ東ハ本丸ヨリ南方ニ三丈ノ道ヲ通ジ北方ヲ續ケ絶壁ヲ以テ限ル

三、本郭ハ其ノ縁端ヨリ高キ(五米位)ノ土壘ヲ以テ圍繞シ戰時ニ於ケル敵ノ通過ヲ防ギ風雨ヲ防グニ宜シク殊ニ本丸ハ更ニ其ノ土壘ヲ高クス

四、天守ヲ防禦線ニ置キ本丸ヲ高キ土壘ヲ以テ圍繞スルハ濱松、掛川城ニ主ヲ同ジクシ本郭高キ土壘ヲ以テ圍繞スルハ掛川高屋城ニ似リ

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

沼津城主変遷表

藩主	城主	石高	期間	年限	備考
水野	今	(伊勢 宗瑞)	文明十一年		当城ハ、文明十一年、伊勢長氏、今川氏親ノタメニ築ケト傳フ 延徳三年長氏、足利茶兎ヲ誅シテ此ノ城ニ移リシトキニ今川氏ニ託ス (沼津市誌)
	川				
	今				
	桃				
	栗				

一名、三枚橋城、霞潮城

(図)
当地ヘモト、東海ト呼ブ、
弘治年中驛路ヲ設ケ
沼津ヲ経ル始ヘ。

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

沼津城主変遷表

一名、三枚橋城、觀潮城

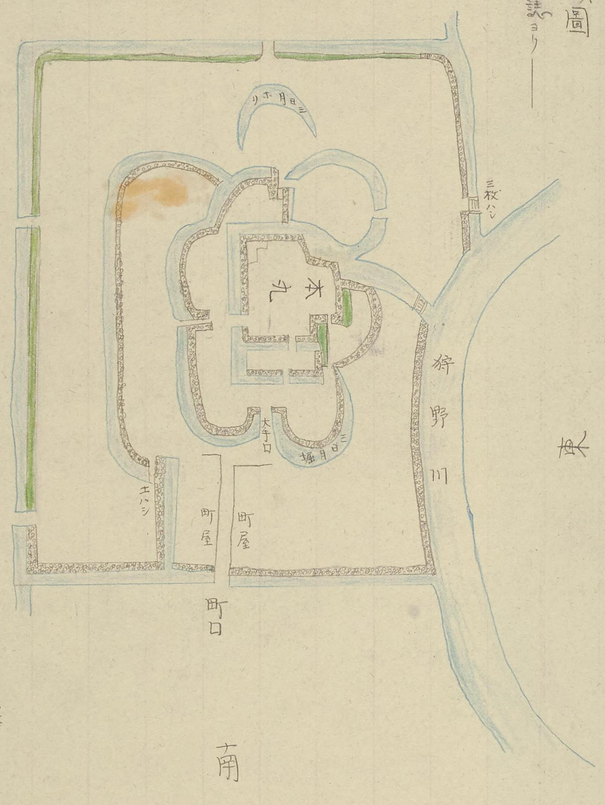
藩主	城主	石高	期間	年限	摘要
今（伊勢宗瑞）			文明十一年		當城ハ、文明十一年、伊勢長氏、今川氏親ノタメニ築ク所ナリ。延徳三年長氏、足利茶々丸ヲ誅シテ韮山城ニ移リシトキヨリ今川氏ニ屬ス。（沼津市誌）
今川氏					
武田氏	高坂昌宣		元亀元年十月		永禄十年十月、武田晴信駿河ヲ略スル時ニ當城ハ北條氏康ニ屬シ、今十二年十月氏康、晴信ニ大敗シテ東駿、諸城多ク武田氏ニ歸ス。晴信、ソノ場馬場信房ニ命ジテ當城ヲ修築シ、高坂昌宣ヲシテ守ラシム。昌宣、長篠役ニ討死スルモ尚、ソノ沒年明確ナラズ。
〃	城代		天正十年三月	19年	
徳川氏	松井康親	三五、〇〇〇貫	今 年 月		家康駿河平定。
〃	康重		今 年 月	(2代) 9年	松井康親ヲ置キテ守ラシム。（三ヨリ先、康親牧野原城ヲ守ル）
中村一氏	中村一榮	三〇、〇〇〇	今 年 月	11年	武藏騎西城ヘ
大久保氏	大久保忠佐	二〇、〇〇〇	慶長六年二月	13年	中田原役後、中村一氏駿府ニ封ゼラル、コノ時當城ハ、第一榮ヲ置キ一氏子一忠伯耆米子城ヘ移リシ時之ニ隨フ。
幕領			今 年 月		上總茂原ヨリ五千石領セラル。以後廢セラル。
徳川頼宣			元和二年		（コノ時、郡奇、長野左エ門本リテ城北ニ居舍ヲ構ヘテ住ス。）（沼津市誌）
幕領			今 五年七月	(65年)	
徳川忠長			寛永二年正月		寛永九年火災アリ。矩墜悉ク燼ス、十九年代官野村彦太夫支配ス、當治三年廢ス、其後伊豆代官江川太郎左エ門之ヲ司ル。（市誌）三河大濱城ヲ。
幕領			今 八年四月		十月幕命ニヨリテ再ビ城郭ノ製ヲ令九年完成ス。
水野	水野忠友	三〇、〇〇〇	安永六年四月		初メ一万四千石、天明四年正月三万石トナル。
〃	忠成	三〇、〇〇〇	享和二年九月		文政四年十月一万石、今十二年十二月一万石加賜、合セテ五万石ヲ領ス。
〃	忠義		文政四年	92年	弘化四年十月火災、櫓樓郭舍悉ク焼燼ス、嘉永三年九月再修ス。
〃	忠武		今 年		
〃	忠良		安政五年	(8代)	安政三年十月地震アリ、殿宮頽ル、今四年秋再修ス。
氏	忠寛		今 年		移化
〃	忠誠		文久二年		移化
〃	〃		今 年		
〃	忠敬		慶應二年		移化
〃	〃		今 年		上總菊間城ヘ
徳川家達	城代		明治元年九月		
			明治二年六月	1年	

（注）當地モト車返ト呼ブ、弘治年中驛路ヲ設ケ沼津ト称ス。元禄五年沼津驛ト改称。——沼津市誌——

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

駿州沼津古城圖

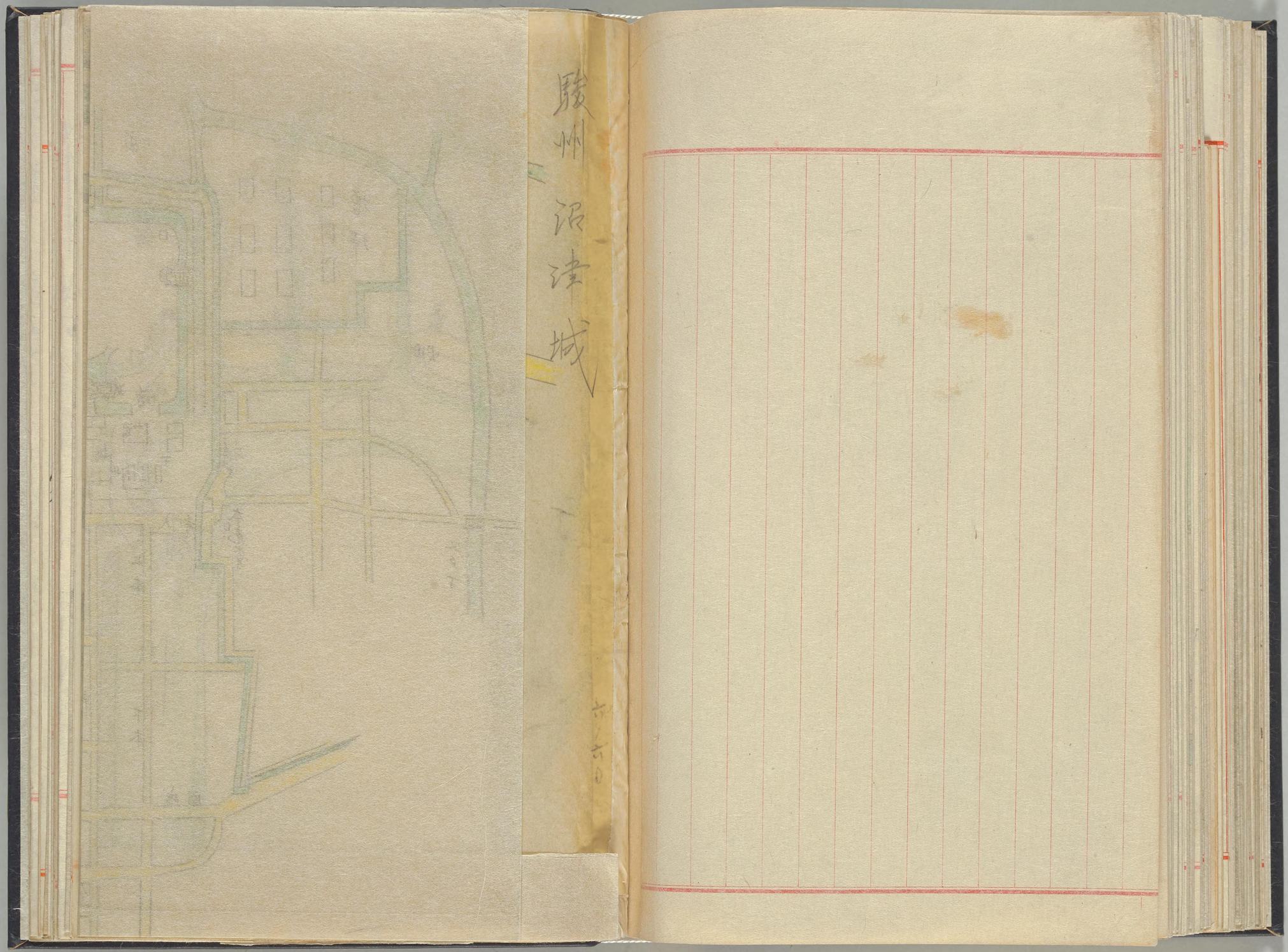
――沼津市誌より――



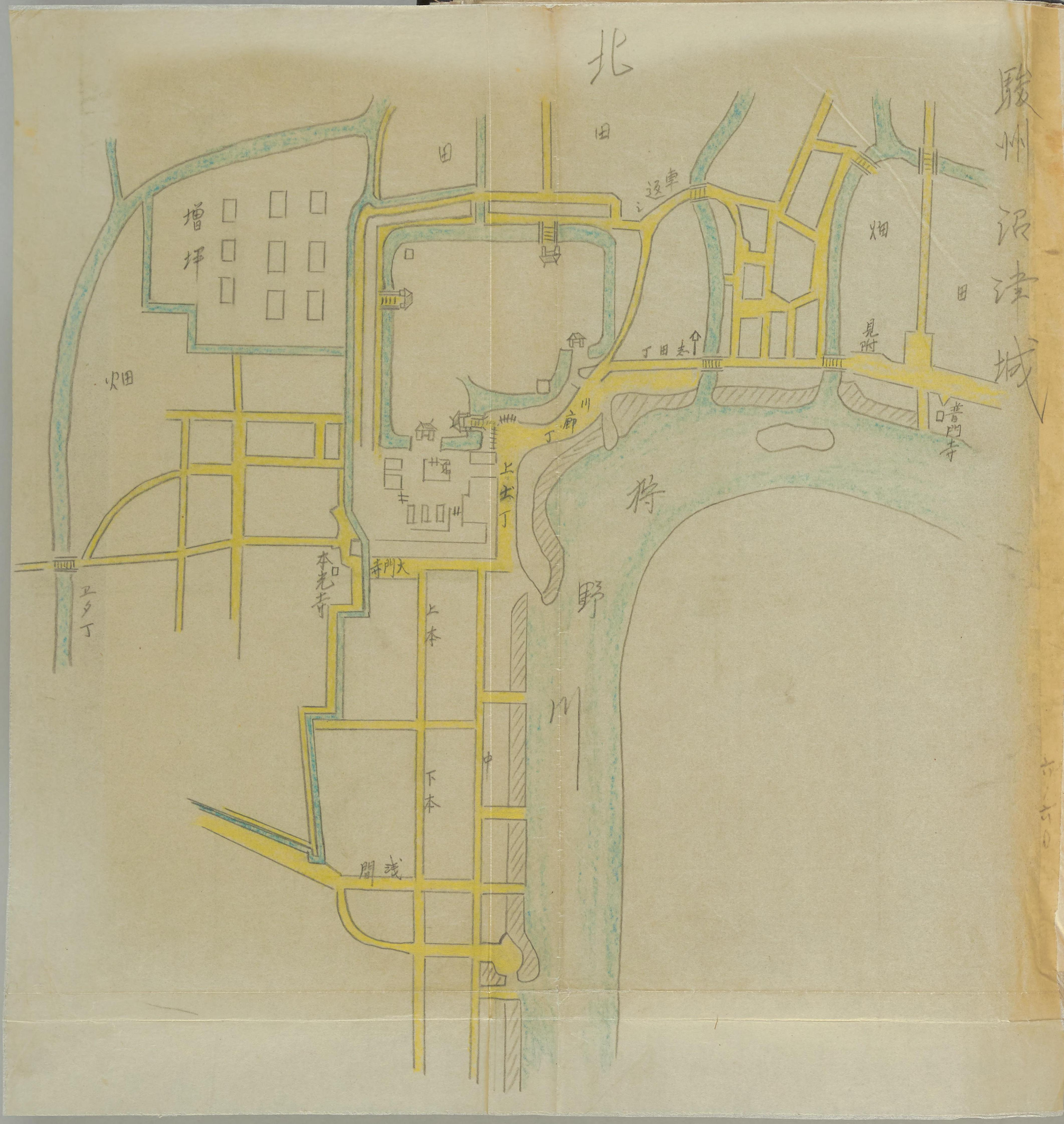
沼津驛

田中信作藏

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4



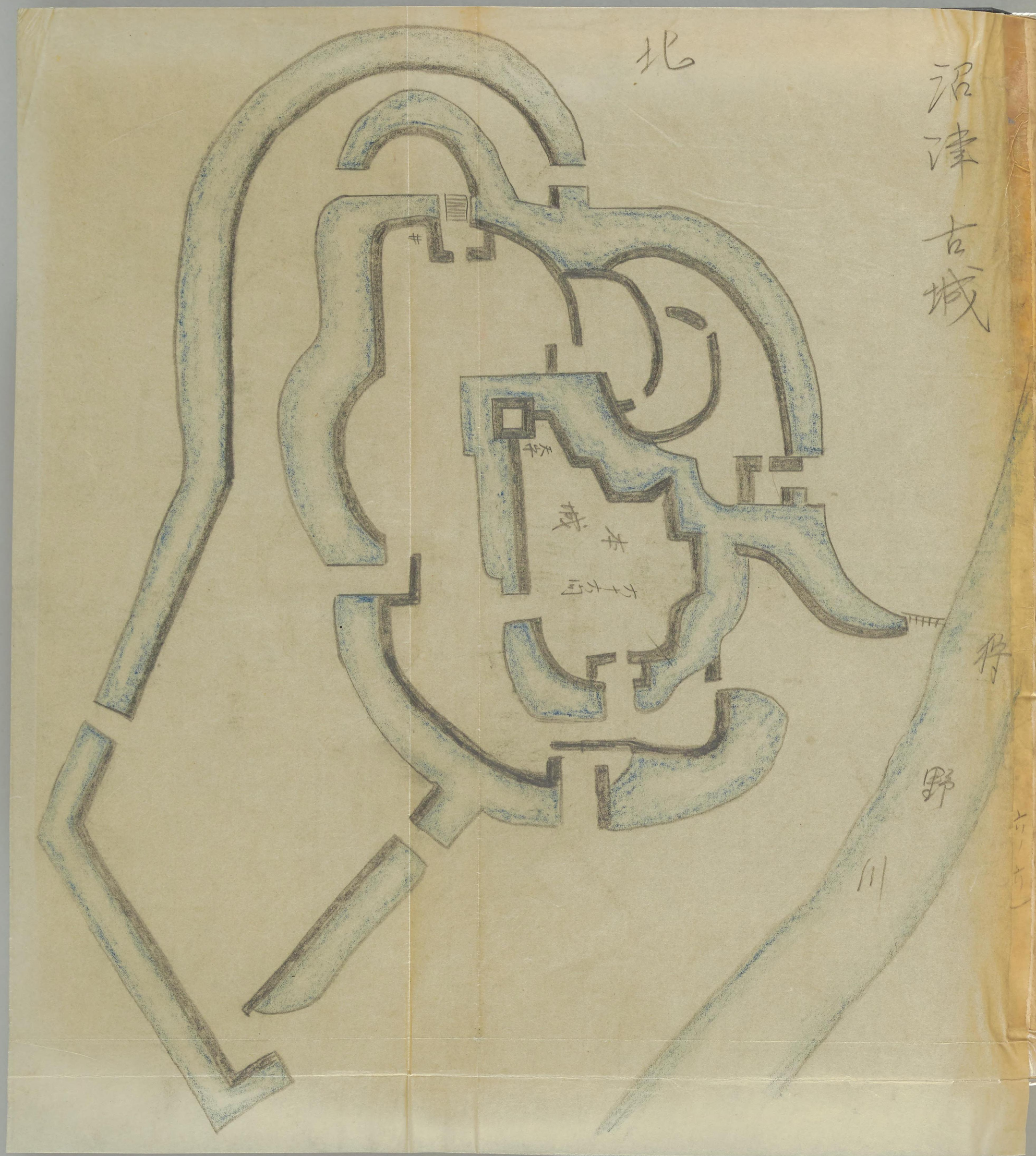
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

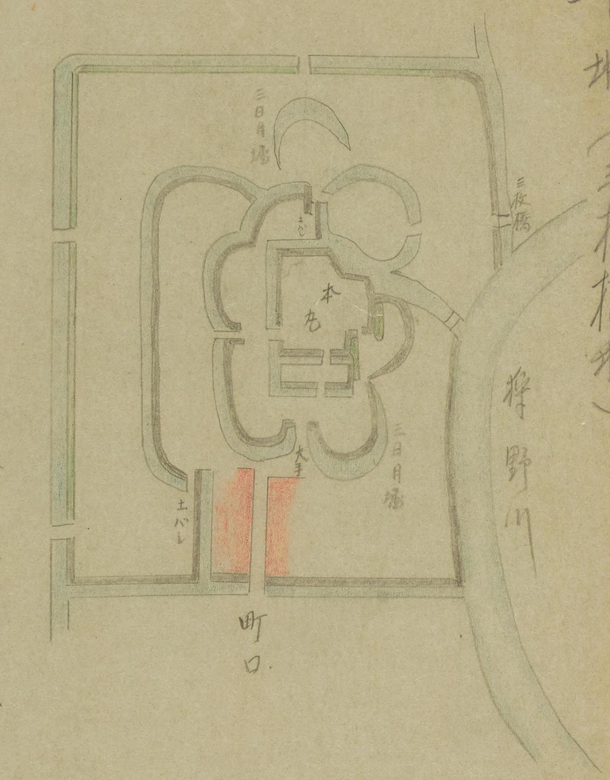
沼津古城

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

沼津古城（三枚橋城）



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

沼津城

現状、城地ハ全ク繁華ナル市街地ト化シ城ノ東側ヨリ税務署ノ東側道路ニ沿ヒ約六、七米ノ石垣ヲ有スル土居ヲ残スノミニシテ城面側ノ堀ハ用水路（巾六十糎）トナリ

地勢ノ概要、城地ノ北、西、南方ハ平垣ニシテ城ノ東方ヨリ狩野川ニ向ヒ降傾斜ヲナス故ニ沼津築城ハ狩野川ノ降将カヲ利用スルノ外全部人工的加工ヲ施スヲ要ス

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

深澤城主変遷表

一名 古澤城

概要

陸軍

藩主	城主	石高	在城期間	年限
今川氏				
北條氏	城代			
	北條綱成		天正十年	
武田氏（駒井右京亮）				

（注）甲陽武鑑ニ元亀元年中ニ一時晴信深澤城ヲ攻略シ駒井右京ヲ置キタル如キモ一ノ聞ノ文実ニ詳ニセズ。

元亀三年籠城ハ正月初旬ヨリ二月下旬ニ渉ル。

――歴史地理五ノ一ノ一

今川氏ノ属城、今川氏衰ヘシヨリ北條氏三属ス。

（静岡県御生祇写）

北條氏守備ヲ置キシ庭柄城ト相并ビテ甲斐ノ敵備ヲ扼ス。

承禄三年ヨリ元亀元年ニ至ル迄ノ間ニ於ケル北條氏ノ武田晴信甲信三国ノ兵ヲ挙ケテ当城ヲ攻ムルヤ数次ニ及ヘリ。（上杉文書）

元亀元年正月晴信再ビ来リ攻ムルヤ氏政ノ援ヲ得テ之ヲ撃チ城将綱成援撰ヲ当城ニ入レ自重シテ動カズ、晴信攻囲百日遂ニ去ラシメタリ。（龍見氏宛北條氏政書状）

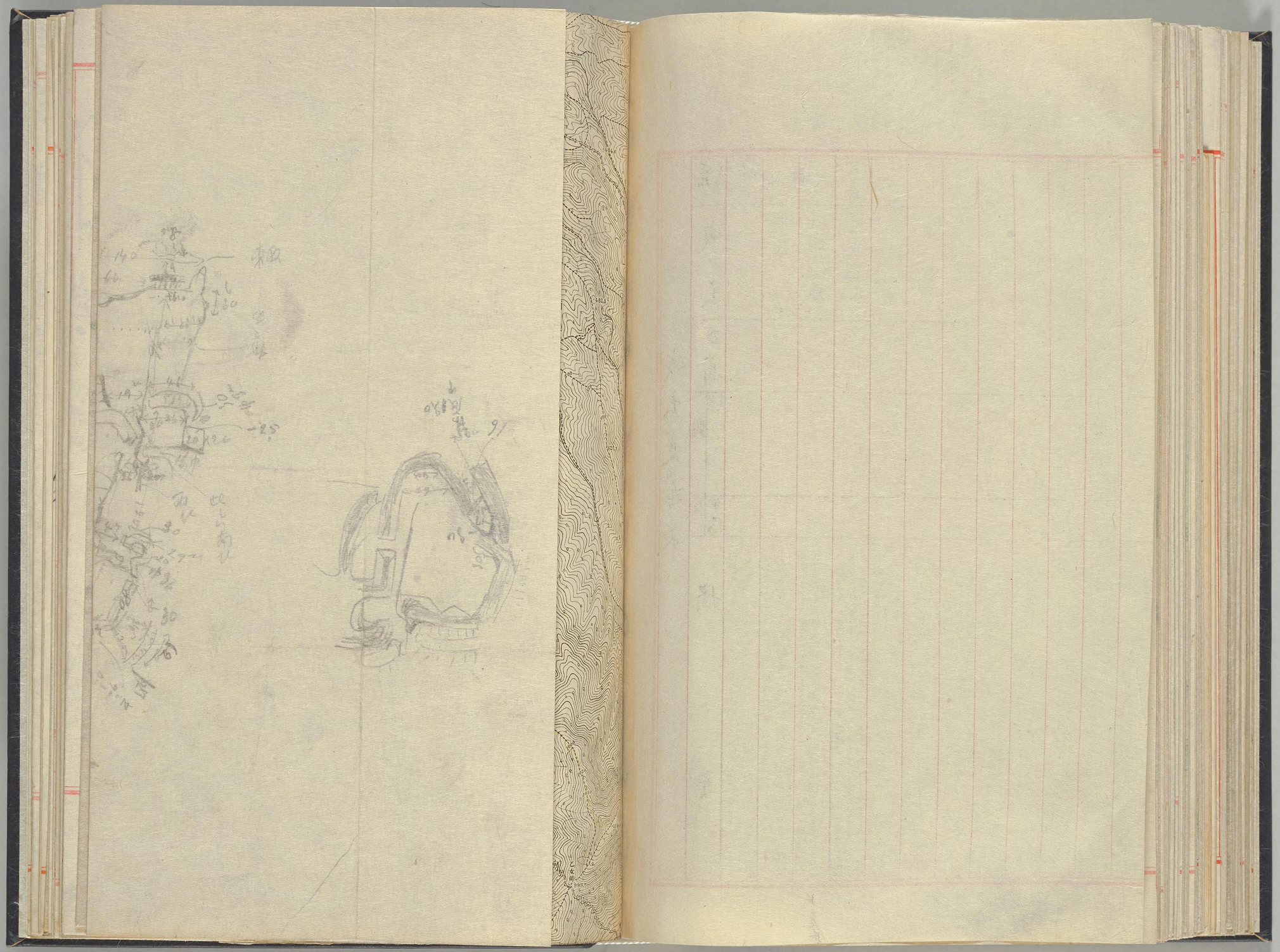
創業ノ年代ヲ詳ニセズ。

北條氏承禄三年ヨリ元亀元年ニ至ル迄ノ間ニ於ケル北條氏ノ武田晴信甲信三国ノ兵ヲ挙ケテ当城ヲ攻ムルヤ数次ニ及ヘリ。（上杉文書）

元亀元年正月晴信再ビ来リ攻ムルヤ氏政ノ援ヲ得テ之ヲ撃チ城将綱成援撰ヲ当城ニ入レ自重シテ動カズ、晴信攻囲百日遂ニ去ラシメタリ。（龍見氏宛北條氏政書状）

天正十年ノ後武田氏ノ有ニ帰セシヲ以テ廃セラレシモノヽ如シ。（増訂武鑑巻首）武田氏駒井右京ヲ置キタルモ遂ニ守ルヲ得ズ武田氏ノ滅亡ト共ニ廃城ニ帰セシモノヽ如シ。（静岡県御生祇写）

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

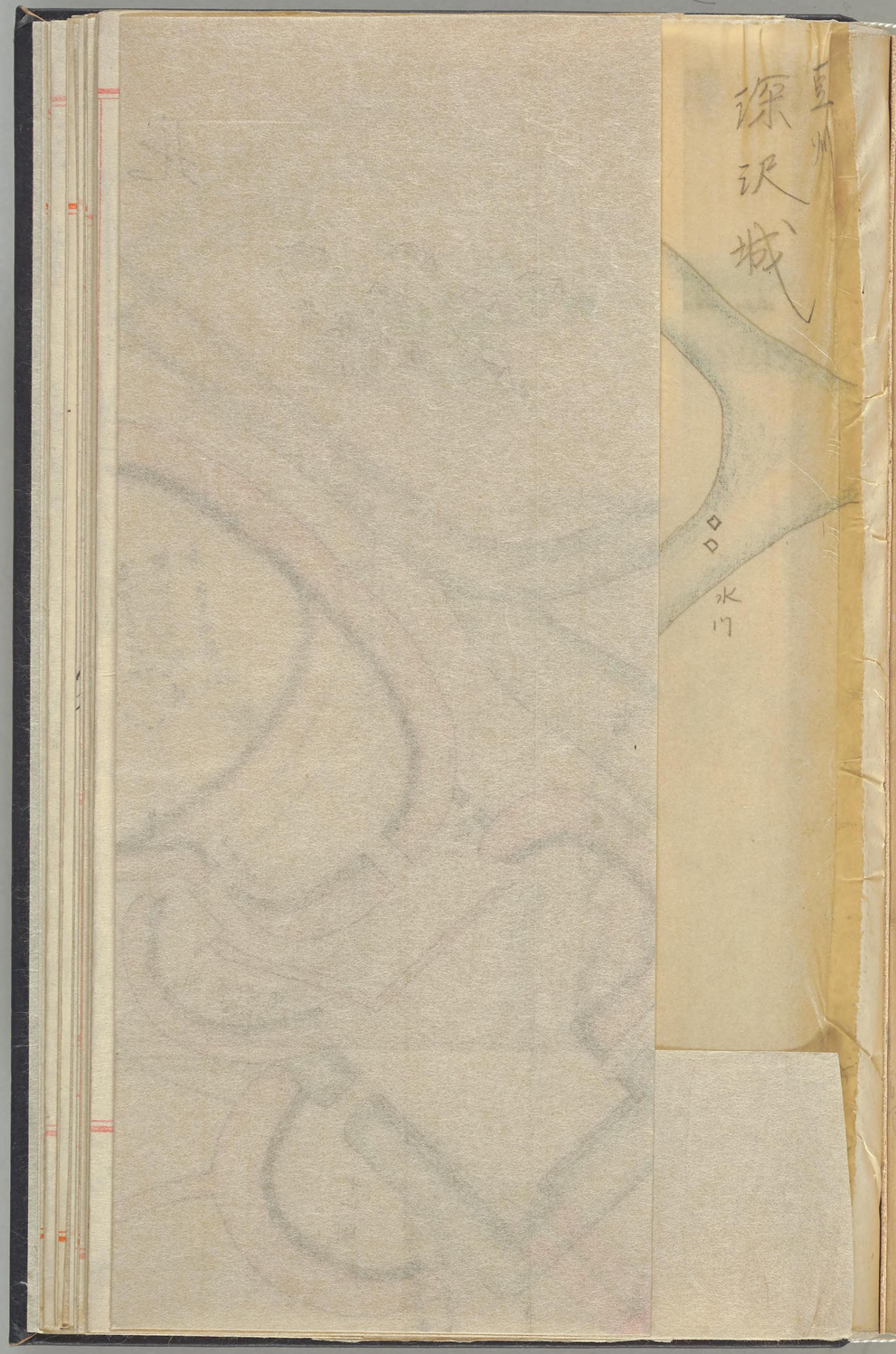
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

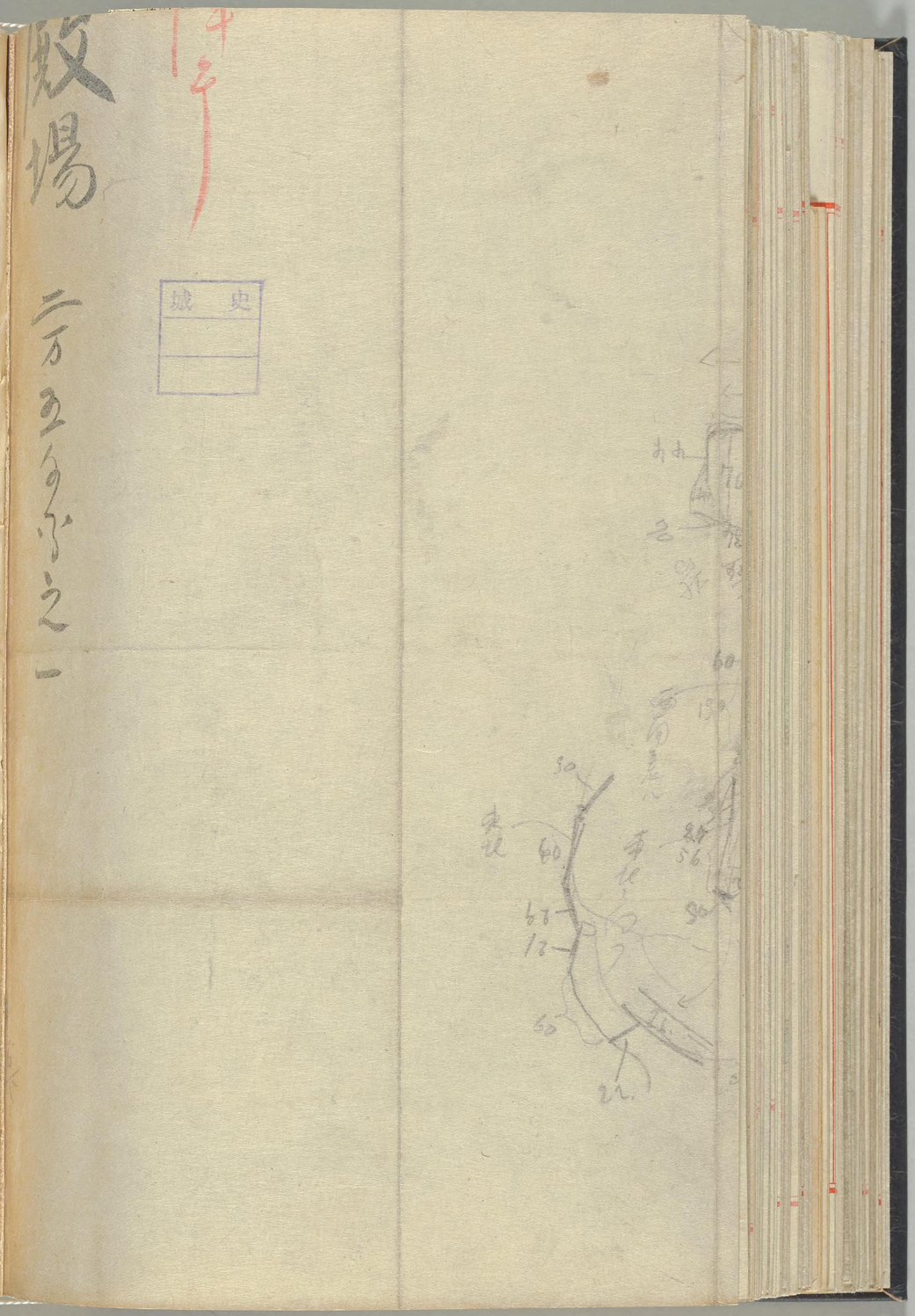
殿場

二万五千分之一

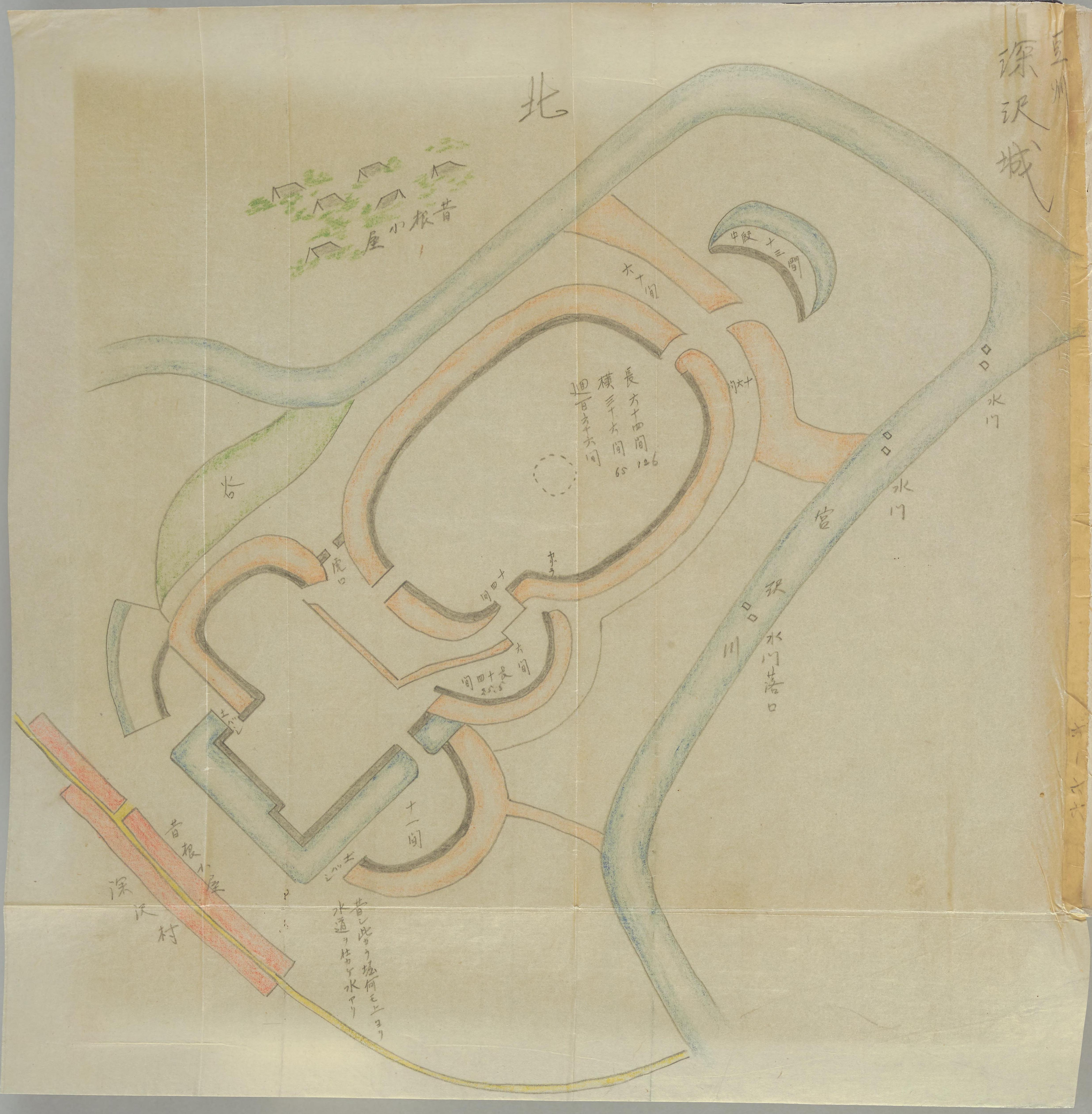
城史

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

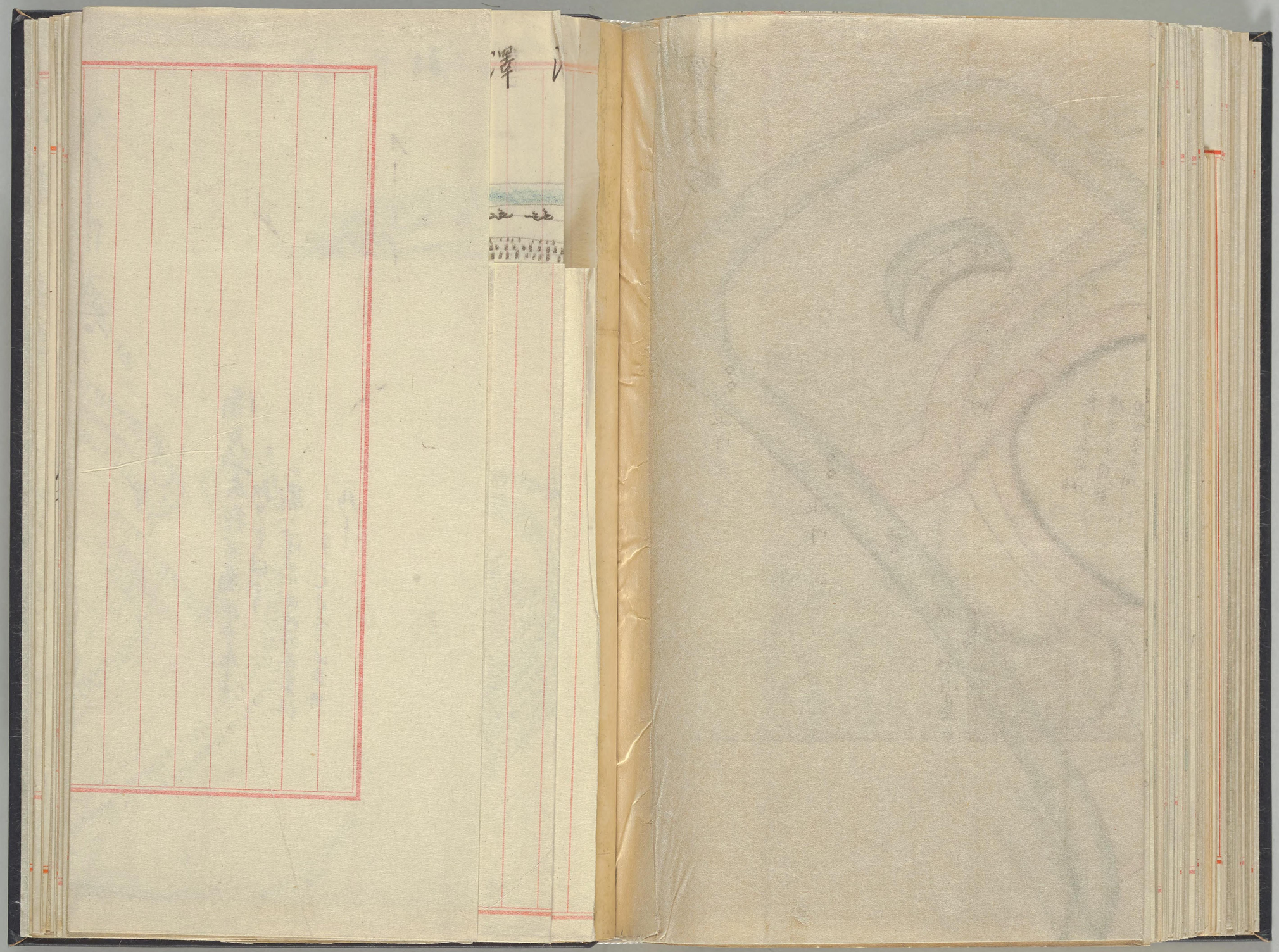




国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4



国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

城澤深

N

1000

備考。一、各郭共高低大差ナシ
即チ平坦ナリ
二、堤、深サハ何時ノ古来ノ
ママナルヤ又ハ何ノ時ノ
ヤラ

大堀ノ

A
B
C
D

+10.0

図断、A-B
1/100

B
6.0
8.0
A

図断、C-D

D
6.0
5.0
12.0
4.0
C

例九
一、澤深一本ノ二未ダ何ノ

深沢城ノ特長

一、相模平野ヲ俯瞰シ得ル高地ニ位シ北伊豆附近ヨリ防禦スル外足柄越ヲ掩護スル為重要ナル価値アリ又富士ガ方ヨリ見テモ恰モ保持ノ高地ノ如キ感ヲ与フ

二、北方ハ河川ヲ以テ遮蔽セラレ十分防禦ニ適シ又敵ノ接近ハ容易ニ看破シ得ル

三、此ノ城ノ本部ヘノ入口ハ三ヶ所ヲ利用シ又其ノ他ノ城郭ニ対シテモ亦同ジク

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

至榛原及東京
至静岡
至宇佐美
至網代
北上村
上中村
元山中
山中新田
町島
田新原
田新山市
田新原塚
阿部野
鍋田村
方田
函南村
南
向原
大土肥
仁田
毛畑
古奈北
古奈南
奈古
畑毛
平井
柿
夏梅木
谷田
門
御
小山
原川
玉
沢
清水村
堂庭
久米田
戸田
川野
沼津市
香貫
山王
山
山横
倉
上倉
下倉
杉
松
代
小
平
大
村
南
藏
吉田
口
片
谷戸
守
里中
駿東
志下
馬込
獅子浜
内浦
重寺
駿河湾
門野
間江北
村間江
南江間
場珍
良塚
野珍
山切大
堀之上
北條
四日町
中條
和田島
延島小路
土手和田
村山葦木
金谷
龍鳴
坂本村
古奈
別所
田端
岡長
川西
新田
厚木
北大
崎矢
山頭鷲
山頭鷲
大久保
南
中
下
上
北
東
西
新
宿
町
原
谷
川
田
池
橋
塚
本
城
前
通
道
鉄
道
線
本
幹
線
駅
役場
学校
寺
神社
墓地
野営地
工場
発電所
水管
鉄塔
三角点
△1198
△1181
△1133
△1113
△1025
△1022
△1013
△1006
△1003
△967
△954
△915
△901
△391
△391
△391

德倉城

史蹟

二万五千分之一

史蹟

山

二万五千分之一

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

史蹟

三島

二万五千分之一

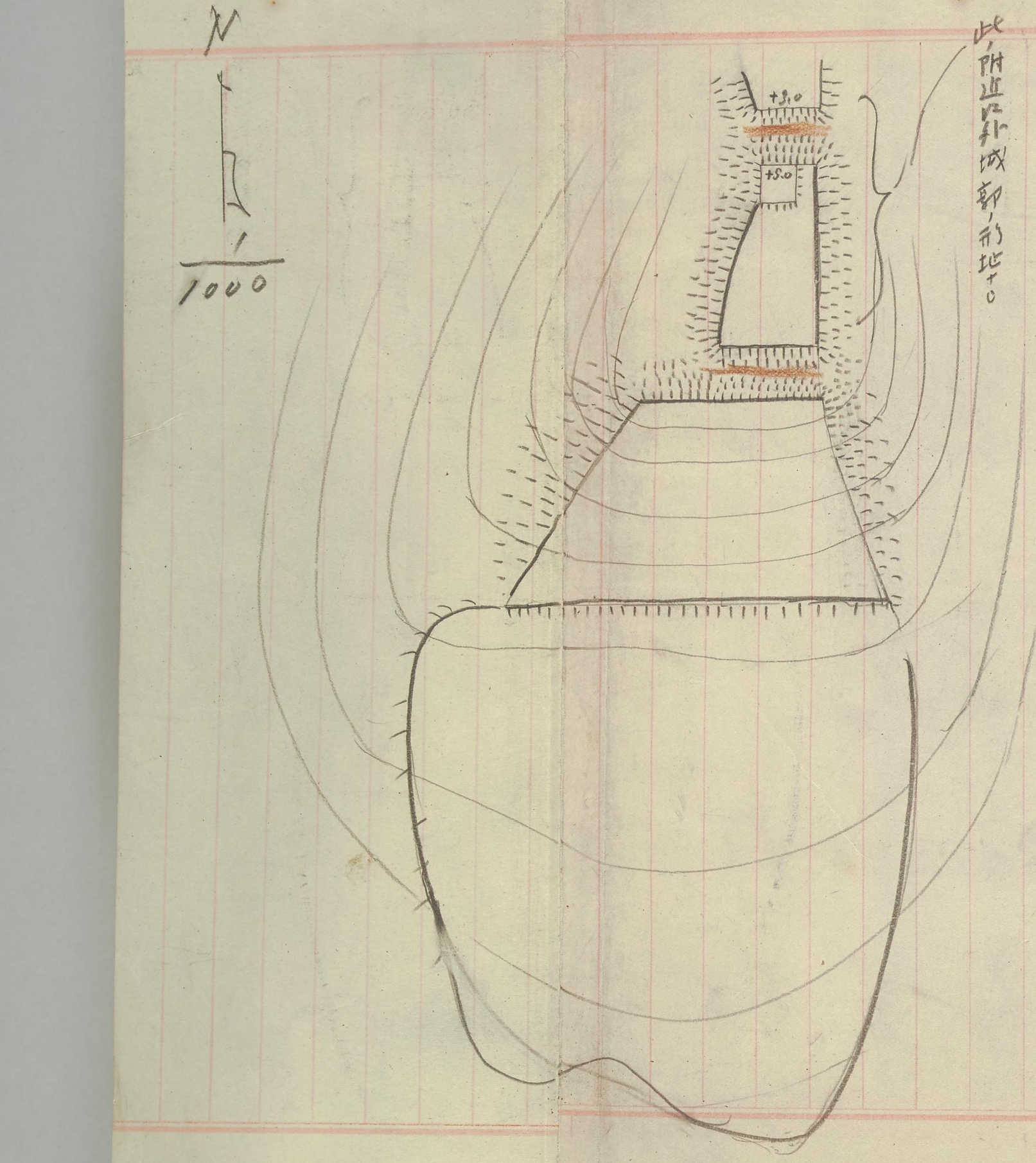
徳倉城

静岡縣ニテハ三島西南方約二キロノ徳倉城ト云ヘル北條軍ノ西軍ヲ抑止スベキ位置ヨリ通称十二天ト称シ踏査ノ結果三島北方約二キロ大久保栗木南側ニ徳倉城ハ北條軍ノ守備セシモノニシテ城址ト認ムル形跡ノ存スルヲ明瞭ニ

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

徳倉城

静岡縣ニテハ三島西南方約二キ、徳倉ノ北條軍ノ西軍ヲ抵止スベキ位置ニシテ三島北方約二キ大久保軍ノ南地ヲ扼セントスル目的ヲ以テ築カレタル城址ナリト明瞭ニ



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

韮山城主変遷表

藩主	城主	在高	期間	年限	摘要
城郭御所	外山豊前守				創築年代明ラカナラズ。外山豊前守城城御所ニ属シテ當城ニ居ス。後譴ヲ蒙リ誅セラル。（北條五代記）
北條氏	北條宗瑞		延徳三年 明應四年 九月		宗瑞（早雲）、堀越ニ足利茶々丸ヲ攻メテ自殺セシメ、伊豆ニ國ヲ取リ、駿河興國寺城ヲ移リテ、當地ニ居城ス。明應四年（大森氏ヲ逐ヒテ、小田原ニ移ル。（ウルド早雲、タダ當城ニ住シ、永正十六年九月當城ニ没ス。）
條城代					爾後、小田原ヨリ將ヲ派シ、守ラシム。
北條氏規			天正十八年 六月		天正廿ヨリ氏康四男氏規當城ヲ守ル。月織田信雄等、當城ヲ圍ム。開城、小田原ニ去ル。
徳川氏	内藤信成	一〇、六〇〇	慶長 六年 二月	今 年 八月	家康、關東移封ト共ニ當城ヘ駿府城ヘ
幕領				今 年	伊豆全刑幕府直轄トナル。三島代官ノ支配ニ屬ス。今時ニ廢城トナル。（寛層年中、三島代官ヲ廢シ、江川氏ヲシテ、韮山ニ治セシム。）

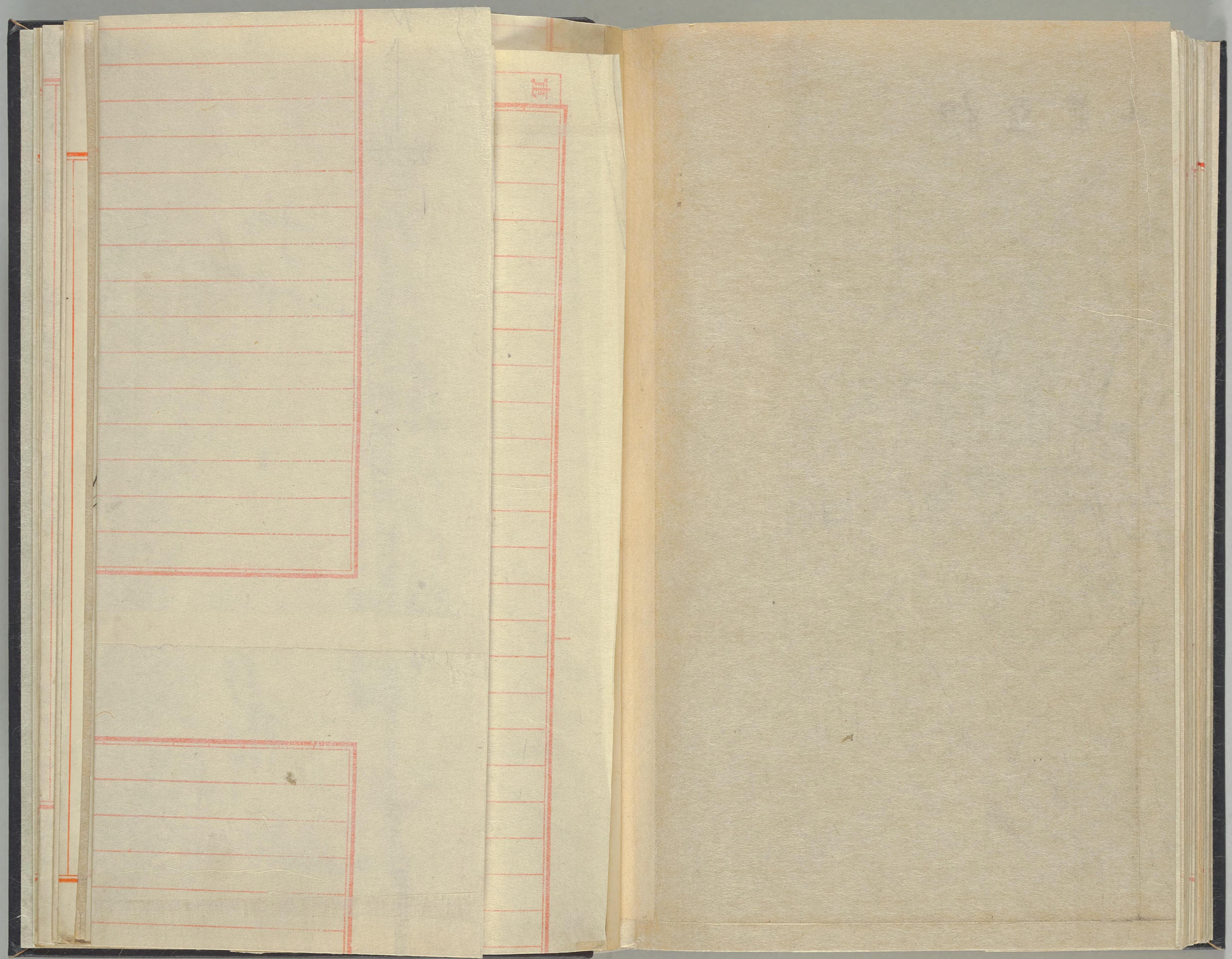
陸軍

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

伊豆韮山城址

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4



国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

菲山城圖

N

1/1000

二ノ丸

本丸

A

B

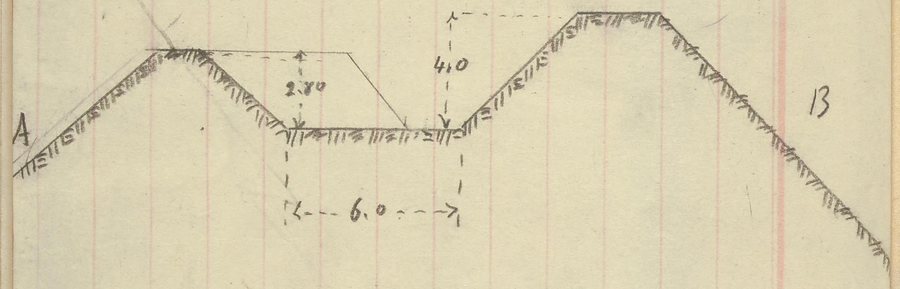
備考

一、單溜ハ一本ニ付高二米ノ柔ラカ
キ粘土ヲ以テ厚サ一米ノ層ヲ堅ク搗
キ固メタルモノニシテ舊態ヲ存ス
二、本丸ト二ノ丸トノ間ニ高サ四米
ノ土橋アリ

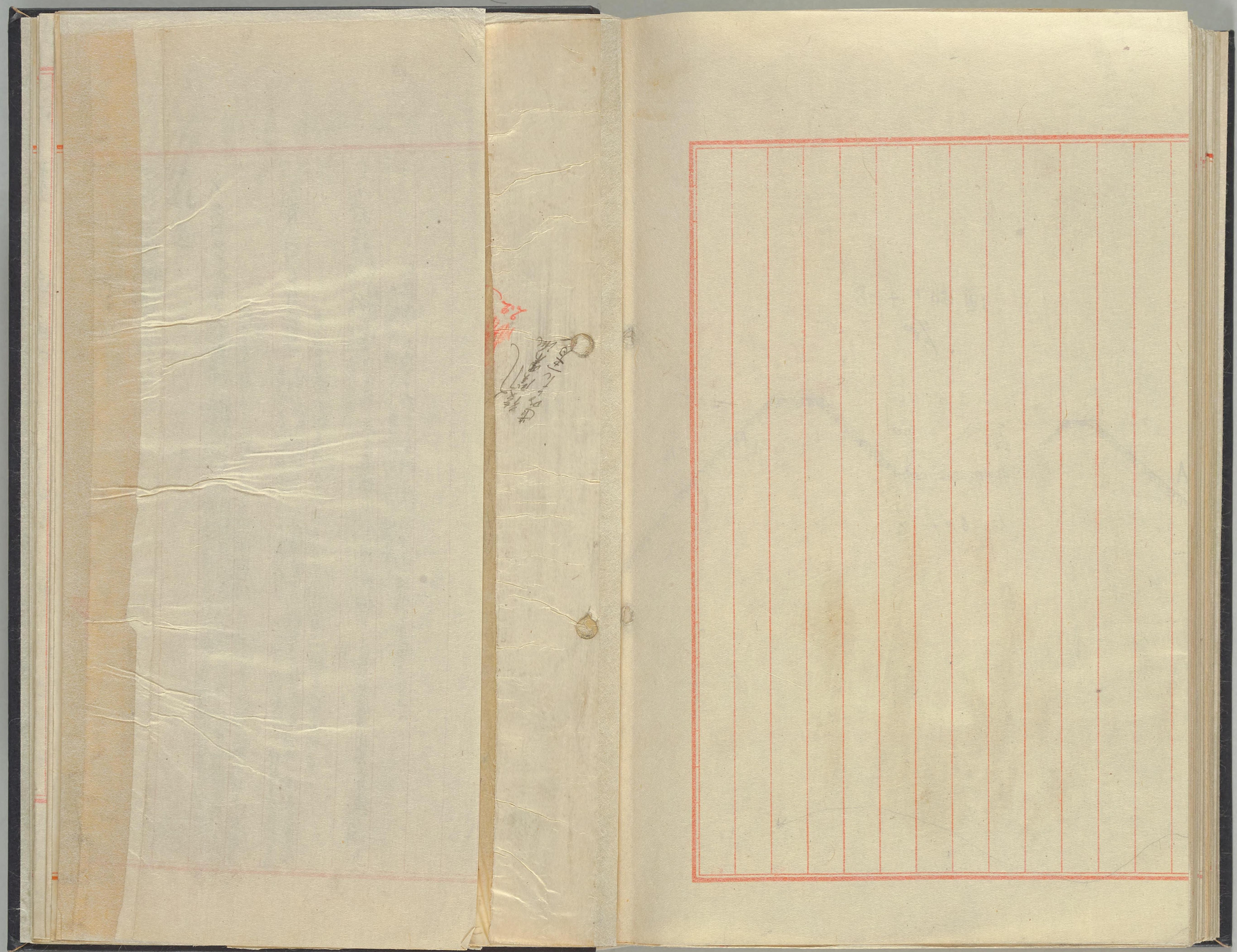
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

断面図 A-B

1/100



国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

菲山城攻撃

一、兵力及配備概図ノ如シ。

二、経過

八、三月二十九日、攻撃。正午詔時行寄ヲ以テ城ノ北外郭ヲ通ジ民村部ニ迫リテ陣ヲ布キ射撃セシム。此規部将山室宗十郎左門横井友盛ヲシテ十八町口ニ突撃セシメ福島正則ノ兵苦戦約ヲ傍観セシム。

2、胃袋ノ一部攻撃。長岡忠興城南ノ出丸ヲ攻撃セシメ桜井屋土ノ二隊ヲシテ之ニ協同セシム。其ノ一隊ヲ以テ新曲輪ヲ出丸及天狗峯ノ間ニ出ダシ天狗峯ノ残兵悉ク城ニ入ル

3、封鎖 a、兵力二百八十九名ノ人

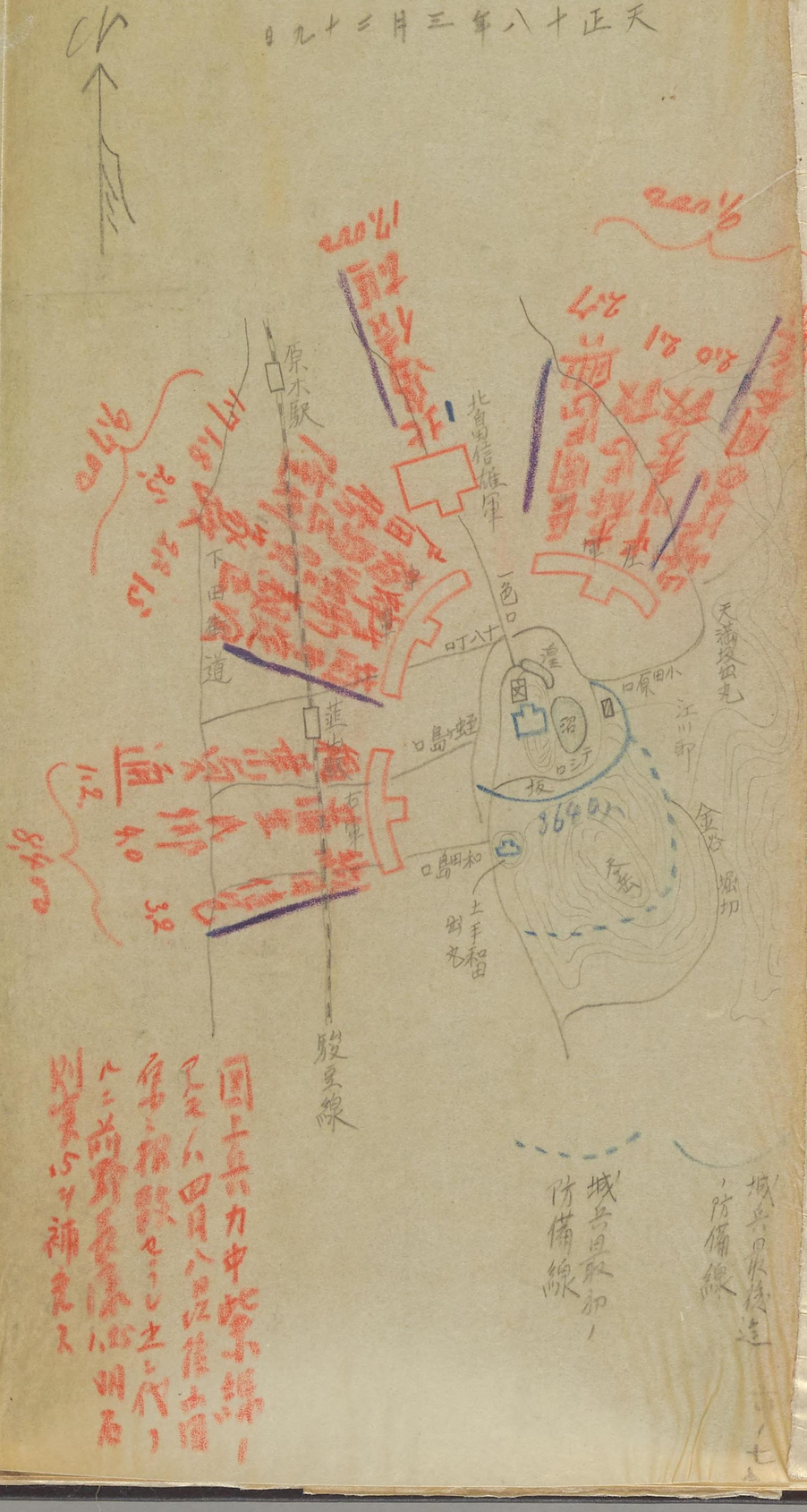
b、封鎖線八日午上ノ茶磨山ー柏谷ノ城山ー菲山東方山本字滝ノ洞上

太閤陣場ー兵ノ南方茶磨山

c、設備 土塁ヲ築キ長柵ヲ設ケ小田原菲山連絡ヲ絶ツ

菲山城攻防要図

天正十八年三月二十九日



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

山中城

築城ノ由來。北條氏康小田原ノ西方防禦ノ爲築城ニ小田原ヨリ
將ヲ派シテ守ラシム

秀吉ト斷絶スルヤ天正十七年大ニ城地ヲ修築ス

經歷。永祿三年武田晴信信濃攻略ノ爲ニ此城ヲ攻メシニ氏康ヨリ支ヘ晴氏目的ヲ達セスシテ歸國ス

天正十八年三月二九日秀吉ニ攻ラレ同日陷ル其經過概要左ノ如シ。

陸軍

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

一、山中城攻撃部署

右、池田輝政ノ本村定勝2800長谷川秀一3600堀秀政4700毋時長宗700計

中 羽柴秀次17,000、羽柴秀勝25,000

左、徳川家康50,000

二、追撃ハ、阿閉淡路守貞征ノ旧領ヨリ玉造村ヲ経テ愛山方向

陸軍

計195,000 189,000

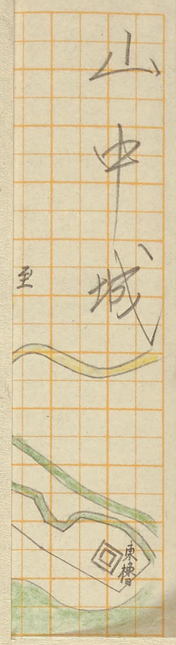
67,800

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

一、山中城攻撃部署
　右、池田輝政ノ本村重政ノ2800長谷川秀一ノ3600堀秀政ノ8700毋時長重ノ7000計25000
　左、徳川家康 30,000

二、進路
　右ハ箱根路・南ヲ玉沢村ヲ目指シ正面ニ
　中ハ三島ヨリ箱根路ヲ山中城・側背ヲ脅威
　左ハ箱根路北方元山中路ヲ進ミ山中城ノ
　　秀吉四万ノ幸ト中央軍待ニ進ム

三、中央軍ノ戦斗（三月二十九日）
　1、偵察　先鋒中村一氏・堀尾吉晴・一柳直末・山内一豊・田中吉政・等
　　笹堰新田南方原（松崎・雪窪千七百米）ニ秀次秀勝ノ三位ノ
　2、徳川家康・中村一氏・士渡辺ヲ伴ヒ山崎ヲ偵察セシメ敵情ヲ探リ
　　正面約三十間横巾ノ堅固ナル一撃ニ達ス秀次ノ一軍ヲ
　3、攻撃前進。中村隊出ヅ。前方約千米ニ達シ
　　「ほい」ノ声十時秀吉ノ同所ニ着ヲ待ツト
　　ヤヽ
　中村一氏　渡辺了ノ手依テ多ク五十ノ手ヲ前進セシメ偵察ス一柳
　直末・其ノ左翼ヲ以テ堀尾・山内一豊ノ中央ヲ堅固ナル陣営後
　以テ戦ヒヲ始メ徳川家康ノ三ノ丸ヲ攻撃ス
　「ほい」ノ声ト共ニ敵ヲ追撃シ三ノ丸ヲ通過シ松田康長等抵戦
　ス一柳直末以下数十人殪ル。余ノ十四騎ノ手ノ候城東ノ高
　處ヨリ望見ス。花猪ノ如ク進ム
　　十ノ鏡砲撃ヲ合ス
　二ノ丸・守将大俣ノ時以下主従十余人
　二ノ丸ヨリ松田康長二百余ノ手ヲ率ヒ守リ奮戦シテ死ス時ニ
　十四日第二正午ノ城陥ル守将戦死五百人



国立国会図書館　　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

小中城

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

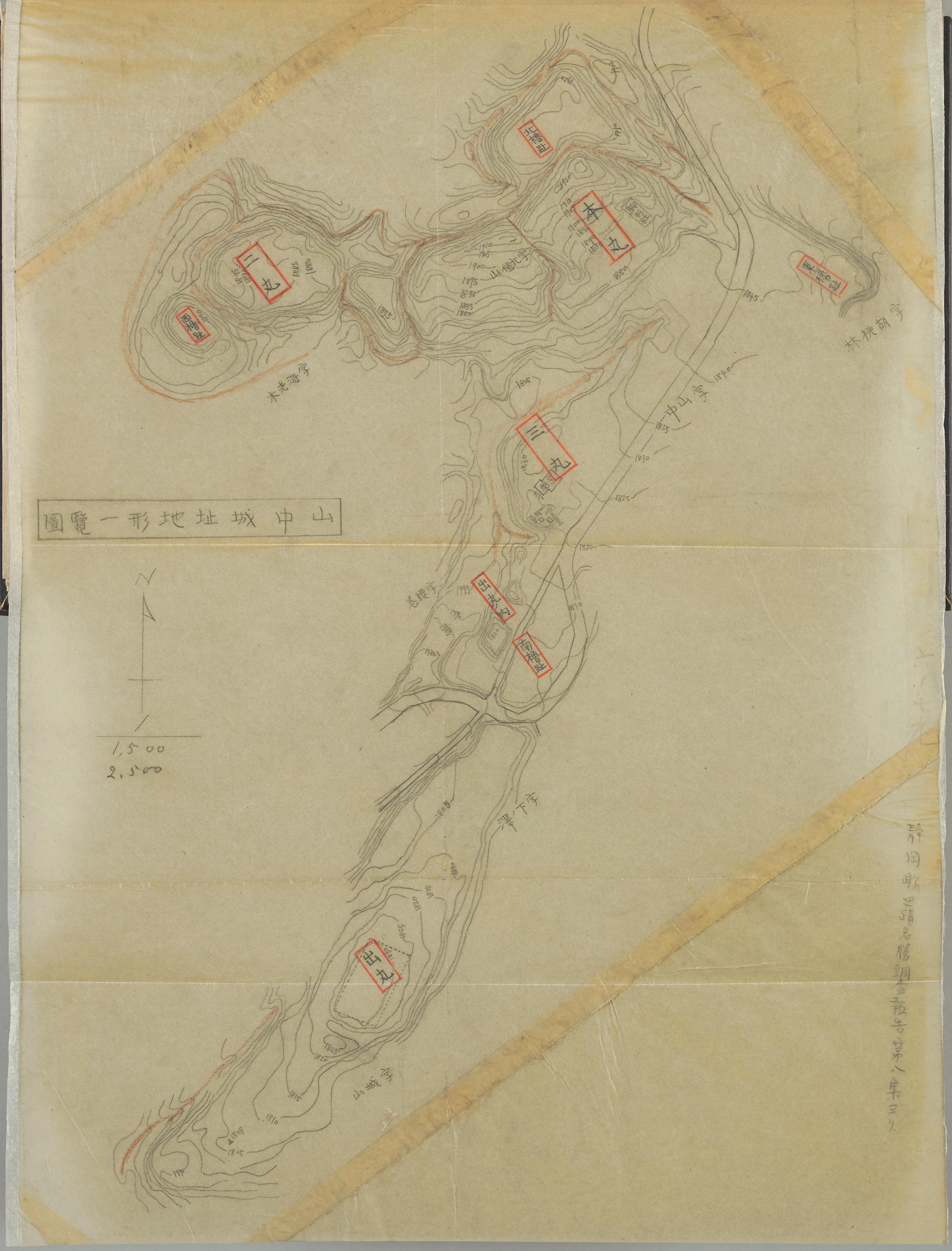
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

圖覽一形地址城中山

N

1,500
2,500



国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

回城中山

N

1000

北櫓

本丸

二ノ丸

西櫓

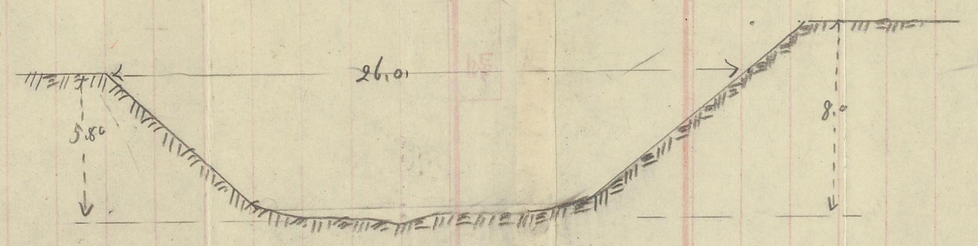
A

B

三ノ丸

南櫓

断面：A–B



考備

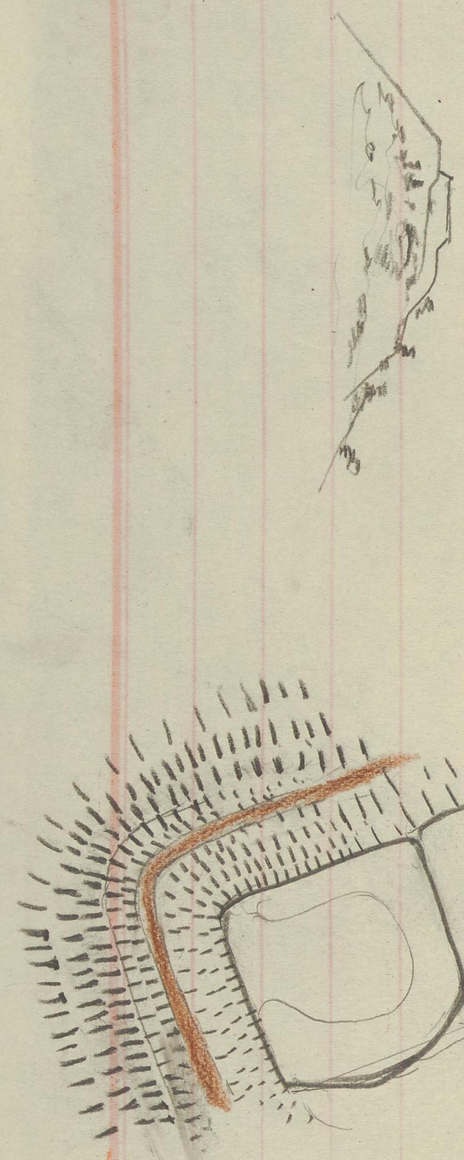
二、堀深サ掘ル所ハ6.0ノ所ヨリ
四時ハ6.0ヨリ5.0マデ
場所ハ13.0ヨリ17.0マデ（上中ニ）

六、土高
三ノ丸 本丸 問9m
二ノ丸 三ノ丸 問20m
三ノ丸 本丸 問9m

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

南方ヨリ出丸



出丸ヨリ見ル方面

韮山城及山中城ノ特長

此ノ両城ハ一ハ平野中ニ孤立セル丘陵ニ設ケ又山中ノ丘陵ニ設ケ
ラレタルモノトシテ比較スルニ適ク備ヘタル地形ヲ利用シ一ハ一日ニ陥リ一ハ殆ント
ニ月ヲ費シ以テ考究スルニ価値アリ

一、山中城ハ東海道ヲ隔テ山地ニ続キ
分散ノ害ナク即チ各郭連絡ヲ
二、韮山城ハ攻撃兵制高ヲ占メ
第二回ノ敵ノ郭攻撃ニ際シ
マルガ如ク結果ヨリ城主ノ一挙ニ
三、山中城ハ山地及空濠ノ障碍カラ
碍カラ利用シ即チ後者ハ前者ニ

陸軍

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4

其他ノ事項

一、狩野川ハ図上紫色ノ線ヲ追ヒ蒜山ノ外壕ニ引利用セシメラレ

二、蒜山封鎖線ハ図上藍色ノ如キ

三、江川氏邸ハ敵陣防禦設備ヲ以テ其ノ設備ヲ以テ寧ロ防禦線ハ邸宅ノ外壕ヲ以テ

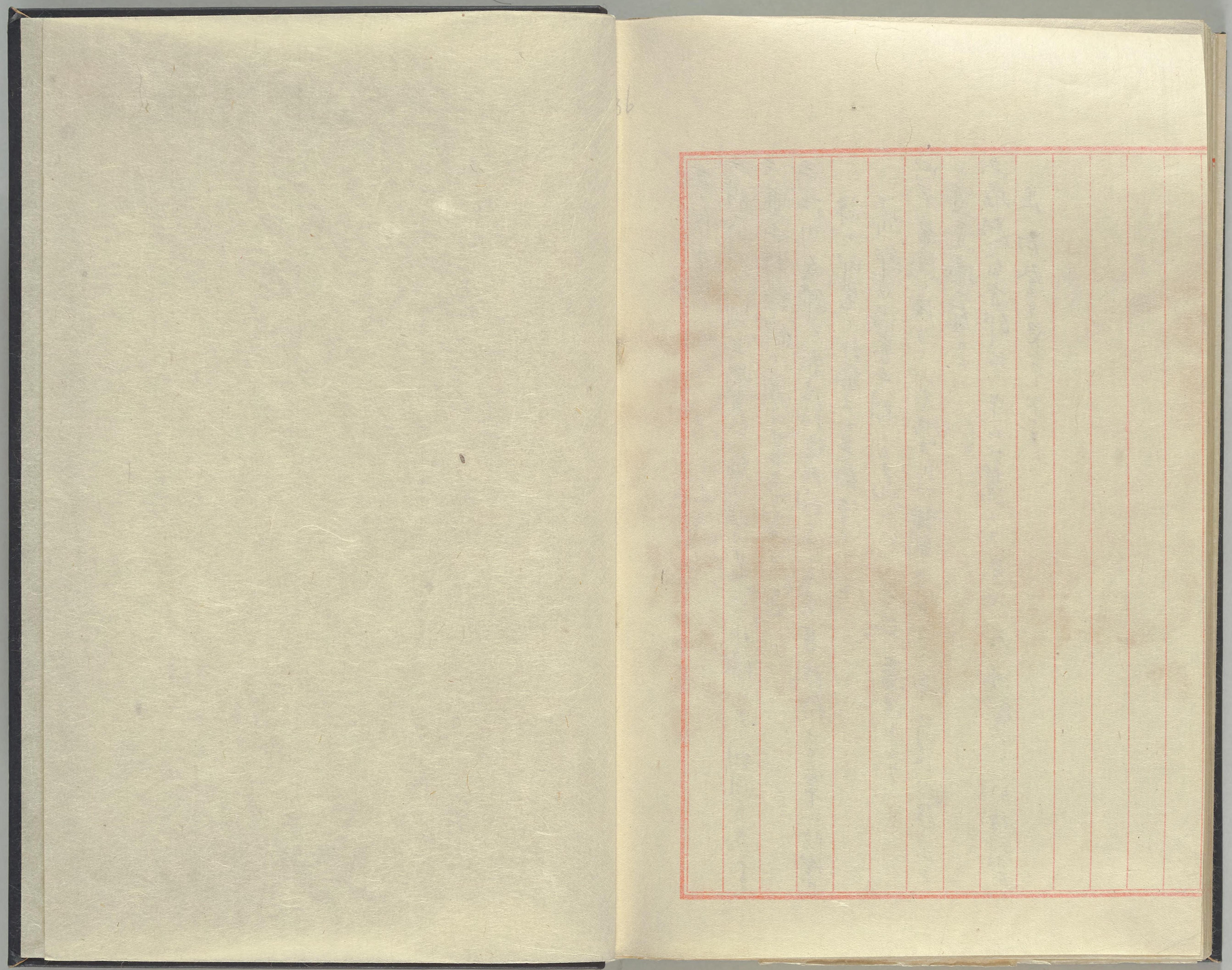
江川邸ハ保元年間ノ築ニ一八一六年迄ニ築造ヲ

四、平築陣ノ底ヲ山木築地ハ瞬刻ニ

運ヒ入ル場ヲ有セズ

五、堀越公方邸地ハ守山北麓トス守山ハ戎ノ城郭トシテ

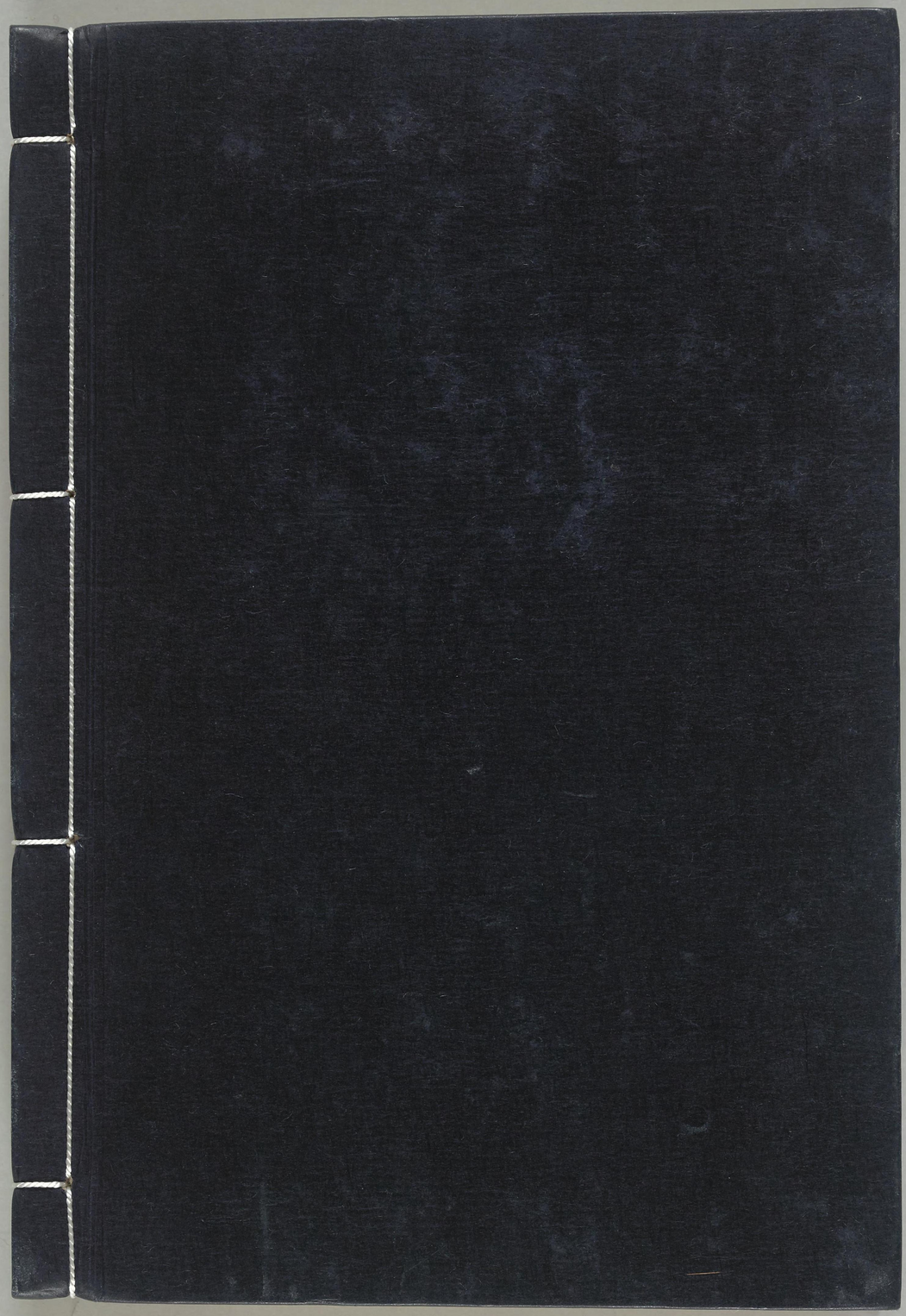
適ノ高登リ見ヲ設ケズ



国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第16冊　本別20-4

別20
4
16

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第16冊　本別20-4